

2021年度

日本農業経営大学校 シラバス



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

2021 年度 日本農業経営大学校 シラバス 目次

カリキュラム概要

カリキュラム全体像	3
経営力領域科目一覧	4
農業力領域科目一覧	5
社会力領域科目一覧	6
人間力領域科目一覧	7
現地実習、ゼミ、経営計画策定演習、総合的学習、卒業研究、特別講義、特別活動	8

経営力領域シラバス

<経営力入門>

マーケティング入門	11
農業簿記	13

<経営戦略>

農業・食の経営戦略	14
農業経営学	15
情報戦略の理論と実践	16
経営組織論と農業	17

<流通・マーケティング>

消費者の心理と行動	18
食農連携マーケティング	19
食品流通論	21

<会計・マネジメント>

会計・ファイナンスと農業	23
コーポレート・ファイナンス	24
農業経営のリスク管理	25
農業経営の社会的責任と SDGs	26
農業経営者の法律	27
人材マネジメント	28

<事業創造・イノベーション>

イノベーション実践論	29
アントレプレナー論	30
農業起業論	31

農業力領域シラバス

<農業力入門>

日本農業論	35
農業経済学	37

<生物と農業>

生物と農業生産Ⅰ	38
生物と農業生産Ⅱ	40

<資源・環境と農業>

資源・環境と農業生産Ⅰ	42
資源・環境と農業生産Ⅱ	45

<食料・農業の政策と法律>

日本の食料・農業政策	48
世界の食料・農業政策	49
食料・農業の法律と制度	51

社会力領域シラバス

<社会力入門>

フードシステム論	55
----------------	----

<消費者・食生活・食文化>

食生活と食文化	56
---------------	----

<農村地域の活性化>

農山村の再生戦略	57
協同組合論	59
集落営農とJA出資型農業法人	60
農業と女性	61
地方行政との連携・協働	62

人間力領域シラバス

<人間力入門>

経営者のための社会学	65
経営者のための哲学	66
経営者のための心理学	67

<リーダーシップ>	
経営者としてのリーダーシップ	68
地域・農村のリーダーシップ	69
農業経営者実践論	70

<グローバル発想>	
日本農業史	72
語学	74

経営計画策定演習

事業構想	77
マーケティング・リサーチ	78
マネジメントゲーム	79
経営シミュレーション	80

特別活動シラバス

<体育的活動>	
ヨガ	83

<文化的活動>	
華道	85

ゼミ

申ゼミ	89
吉野ゼミ	91

カリキュラム概要

カリキュラム

※新型コロナウイルスにより変更となる場合があります。

区分			授業時間				単位			
領域	学 群	科 目	1 年次		2 年次			計		
			前期	後期	前期	後期				
講 義	経営力	オリエンテーション	39				39			
		経営力入門	マーケティング入門	15				15	1	
			農業簿記	24	6			30	2	
			農業・食の経営戦略	15	15			30	2	
		経営戦略	農業経営学	22.5				22.5	1.5	
			情報戦略の理論と実践		15			15	1	
			経営組織論と農業				15	15	1	
		流通・マーケティング	消費者の心理と行動	12				12	1	
			食農連携マーケティング			30		30	2	
			食品流通論			15		15	1	
		会計・マネジメント	会計・ファイナンスと農業	会計・ファイナンスと農業		15	15		30	2
				コーポレート・ファイナンス				15	15	1
				農業経営のリスク管理				15	15	1
				農業経営の社会的責任とSDGs				15	15	1
	農業経営者の法律					15	15	1		
	人材マネジメント					9	9	0.5		
	事業創造・イノベーション		イノベーション実践論			15		15	1	
		アントレプレナー論				9	9	0.5		
		農業起業論	9				9	0.5		
	計		97.5	96	45	78	316.5	21		
	農業力	農業力入門	日本農業論	15				15	1	
			農業経済学		12			12	1	
		生物と農業	生物と農業生産Ⅰ	12				12	1	
			生物と農業生産Ⅱ		18			18	1	
		資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅰ		15			15	1	
			資源・環境と農業生産Ⅱ			15		15	1	
		食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策	12	10.5			22.5	1.5	
世界の食料・農業政策					15		15	1		
食料・農業の法律と制度					15	15	1			
計		39	55.5	30	15	139.5	9.5			
社会力	社会力入門	フードシステム論	12				12	1		
	消費者・食生活・食文化	食生活と食文化				12	12	1		
		農山村の再生戦略	12	12			24	1.5		
	農村地域の活性化	協同組合論		15			15	1		
		集落営農とJA出資型農業法人			15		15	1		
		農業と女性				15	15	1		
		地方行政との連携・協働				15	15	1		
計		24	27	15	42	108	7.5			
人間力	人間力入門	経営者のための社会学	15				15	1		
		経営者のための哲学		9			9	0.5		
		経営者のための心理学			9		9	0.5		
	リーダーシップ	経営者としてのリーダーシップ		15			15	1		
		地域・農村のリーダーシップ			15		15	1		
	グローバル発想	農業経営者実践論		6		9	15	1		
		日本農業史			15		15	1		
計		14	18	18	14	64	2			
計		29	48	57	23	157	8			
合 計		228.5	226.5	147	158	760	46			
区 分										
現地実習	先進農業経営体派遣実習（1年次・7月～10月の4か月間）		450	180			630	14		
	企業実習（2年次・7月後半～10月前半の3か月間）				360	90	450	10		
	計		450	180	360	90	1080	24		
ゼミ	学年別ゼミ		30	30	45	45	150	4		
	合同ゼミ		15	15	15	15	60	2		
	計		45	45	60	60	210	6		
経営計画策定演習	事業構想				15		15	0.5		
	マーケティング・リサーチ			15			15	0.5		
	マネジメントゲーム			15			15	0.5		
	経営シミュレーション			3	6	6	15	0.5		
計			33	21	6	60	2			
総合的学習			15	20			35	1		
卒業研究						150	150	5		
特別講義			18	27	18	27	90	3		
特別活動	体育的活動					15	15	0.5		
	文化的活動		15				15	0.5		
	視察研修		40				40	—		
	学校行事		28	27	52	33	140	—		
	計		83	27	52	48	210	1		
通常講義以外の合計			596	327	531	381	1835	42		
総 合 計			824.5	553.5	678	539	2595	88		

注：授業時間は1単位時間＝50分である。1時限（75分）の授業を1.5時間とする。（授業時間の15時間は、10時限の授業に相当する。）

経営者に求められる本質的な知識や技法を学び、経営者としての判断、決断ができる資質、能力、態度を育む。

経営力領域

学群	科目	授業時間	単位	開講時期・時数			担当講師	概要
				前期	後期	1年 2年		
経営力入門	マーケティング入門	15	1	10			折笠俊輔 ((公財)流通経済研究所 主幹研究員)	本講義では、マーケティングの定義や考え方を中心に扱う。様々なケースを中心にマーケティングの成功要因を自ら発見できるようにすることを重視する。また、マーケティングに携わっている実務家を招聘し、実践的な話を聴く機会を設ける。
	農業簿記	30	2	16	4		野島一彦 (学校法人大原学園 教育事業部第3教育部 部長(代理)) 西山由美子 (税理士、にしやまゆみこ税理士事務所 所長)	農業簿記の教科書・問題集を使用して、簿記の基本から、農業特有の取扱いを踏まえた日常的な記載。決算時の会計処理、財務諸表の作成までを演習を多く取り入れながら学習し、1年次前期において農業簿記・確定3級受験の合格を目指す。また、1年次後期は簿記・会計の実務に関するところから取り上げる。
経営戦略	農業・食の経営戦略	30	2	10	10		上原征彦 ((公財)流通経済研究所 理事・名誉会長)	農業経営における競争優位を身につけ出し、戦略を立案していく思考能力、それを実行に結びつける実務能力を身に付けることを目的とする。
	農業経営学	22.5	1.5	15			南石晃明 (九州大学大学院農学研究院教授) ほか	学際的・国際的な視野に立って農業経営の理論と方法について学ぶ。農業は地域に根ざした産業であるが、次世代の農業経営においては、他産業や海外農業の動向・発展方向についても理解を、地球的・本格的な視点から経営戦略の決定とその効果的な実行を行うことが求められる。そこで、多様な農業経営の発展過程とその経営管理についての理解および方法の両面から理解すると共に、実践的な農業経営管理手法を身に付ける。
	情報戦略の理論と実践	15	1	10			上原征彦 ((公財)流通経済研究所 理事・名誉会長) 中藤弥義 (株式会社コムテック22 シニアコンサルタント)	経営・マーケティング活動における情報戦略について幅広く学習し、情報技術等を有効に活用したイノベーションの構築、顧客・業界との新たなイノベーションの構築、産産物の販売手法の拡充等、情報をいかに戦略的に活用していくかを実践的に学習する。
	経営組織論と農業	15	1	10			田口光弘 (農研機構 農業経営戦略部 上級研究員) ほか	農業経営の規模拡大が全国的に進展し、雇用管理が強化されている背景を踏まえ、雇用型経営や雇用型農業法人を念頭に、組織づくりに関する経営者の視点から農業経営を論じる。具体的には、従業員の能力開発および組織の成長の主要因と捉え、組織内の役割分担や情報共有、情報活用との相関をつくりに関する組織づくりに関する理論と実践、および従業員間の育成やモチベーション向上などの人的資源管理の理論と実践について論じる。
	消費者の心理と行動	12	1	8			神谷渉 (玉川大学経営学部国際経営学科学科准教授)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際、どのような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合っているのか、それらによってどのような結果が生じるかを学ぶ。手法を講義後、簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。
	流通・マーケティング	30	2	20			三村雄幸子 (青山大学大学院名譽教授) 矢嶋剛 (國學院大学経済学部兼任講師、矢嶋ストリー)	地域社会・農業の発展に立ち上り、農畜生産・加工・販売と生活者の食卓までを繋いでいくマーケティングがなぜ重要なのかを学ぶ。農産物の流通・加工・販売と生活者の食卓までを繋いでいくマーケティングがなぜ重要なのかを学ぶ。農産物の流通・加工・販売と生活者の食卓までを繋いでいくマーケティングがなぜ重要なのかを学ぶ。農産物の流通・加工・販売と生活者の食卓までを繋いでいくマーケティングがなぜ重要なのかを学ぶ。
	食品流通論	15	1	10			高橋佳生 ((公財)流通経済研究所 特任研究員) 江口法生 ((一社)日本スーパーマーケット協会専務理事)	流通の基本的な概念・機能と流通に関する社会的役割について学び、さらに消費財全般の流通チャネルの変化や、箱装法等の法規制、コマースの形勢といった最新のトレンドにも触れていく。また、農業・食品産業にかかわる流通の仕組みについて、農業経営者として実務で活用できる知識の習得を目指す。
	会計・ファイナンスと農業	30	2	10	10		森剛一 (税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株) 代表取締役)	農業経営を数字によって把握すること、利害関係者に的確に説明できる能力を養う。また、農業経営を現金・負債・資産と捉える視点から、目的意識を明確にするための手法を講義で身に付けること、経営分析の手法を学ぶ。
	コーポレート・ファイナンス	15	1				竹林陽一 ((株) クリエイティブ・ジャンгл 代表取締役社長)	ファイナンスの理論を学び、資金調達や資金運用に関する知識を習得し、企業価値を最大化する考え方を学ぶとともに、経営者として意思決定を行う方法を理解する。
	農業経営のリスク管理	15	1				池戸重信 (宮城大学名誉教授、(一社)食品表示検査協会理事)	農業は自然を相手に生きものを生産する産業であるため、2次、3次産業以上に多様なハザード(凶害)が存在し、リスクにさらされる。農業においても今後、経営規模が大きくなる、6次産業化によって事業内容も複雑化するにつれ、リスク管理が経営の命運を左右する可能性が拡大する。この授業では主要なリスクとそれへの対処方法を習得する。
農業経営の社会的責任とSDGs	15	1				笹谷秀亮 (CSR/SDGsコンサルタント)	経営を営んでいく中で求められることとなる社会的価値の創造や世界の共通目標であるSDGs(持続可能な開発目標)が長期の取り組みとして、経営における大きな課題となってきたこと、これを踏まえ、今後の戦略としてどのような運営が考えられるかを検討する。	
農業経営者の法律	15	1				足立学 (弁護士、東京富士法律事務所(パートナー)) 須賀一也 (公認会計士、須賀公認会計士事務所 代表)	事業の展開や組織の運営を行う際に経営者として最低限身に付けておくべき法律知識の習得を目的とする。授業では、民法を中心に管理契約の概念につき、法條の条文や判例等を繰り返し交ぜながら、実際の農業経営者の活用を前提にする。さらに、税法の基礎についても学習する。	
人材マネジメント	9	0.5				入来院雅宏 (キリン社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士)	「人を雇うこと」の難しさや経営者の責任を知り、そのうえで、労働基準法等、労務管理に必要な知識を習得し、自己の事業や経営に合わせ適切な労働条件や規則、制度を作成できる力を身に付ける。	
イノベーション実践論	15	1	10			名取聡(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授)	イノベーションの実践と実践力を身に付けることを目的とする。イノベーションの本質・起こし方・テーマに関する講義の後に簡単な事例分析による演習(グループ学習)を行う。	
アントレプレナー	9	0.5	6			川崎則昭 (秋田県立大学生物資源科学部 助教)	アントレプレナー(起業家・企業家)の取り組み方について学ぶ。農家からの新規参入が法人への雇用という形に留まらず、経営者の視点から経営戦略の組み立てや事業決定、人材育成について、ケース・スタディを通して論じていく。また、学生間でのディスカッション時間を設け、自身が経営を実践していくためのために、学びを深める。	
農業記簿論	9	0.5	6			和泉真理 ((一社)日本協同組合流通連携機構 専員研究員)	若い世代が活躍する方法は多様化しており、朝云城隍に加え、農外からの新規参入が法人への雇用という形に留まらず、経営者の視点から経営戦略の組み立てや事業決定、人材育成について、ケース・スタディを通して論じていく。また、学生間でのディスカッション時間を設け、自身が経営を実践していくためのために、学びを深める。	

農業者に求められる本質的な知識を身に付けた上で、地域農業を牽引し、持続・発展させうる農業の実践力に関わる資質、能力、態度を育む。

農業力領域

学群	科目	授業時間	単位	開講時期・時限数		担当講師	概要
				前期	後期		
農業力入門	日本農業論	15	1	10		堀口健治 (日本農業経営大学校 校長) 藤谷栄 (農林中金総合研究所代表) 野谷利徳 (前) アグリフューチャー・ジャパン 参事 元 (株) 農林中金総合研究所 常務取締役 比嘉政浩 (一社) 日本協同組合連携機構代表理事専務	農業力の入門として、日本農業の現状と課題、持続的な農業の実現について多面的に考える。農業の基本的な価値、世界農業の展開について、農法を基礎に経済システムと農業技術の進歩で多様に展開する実状を学ぶ。日本農業は多くの制度や仕組みに支えられており、その機能等を検討し、日本農業の到達点と今後の展開方向を議論する。
	農業経済学	12	1	8		清水徹朗 (株) 農林中金総合研究所理事研究員 若林剛志 (株) 農林中金総合研究所専任研究員 石田一志 (株) 農林中金総合研究所専任研究員 小野澤康晴 (株) 農林中金総合研究所理事研究員	農業経営者として必要な農業経済学の基礎的な考え方を身に付けることを目標とし、農業経済に関する雑誌、新聞の記事内容を理解し、農業経営を実践する際に直面する様々な経済問題を解決できる能力を養う。
	生物と農業生産Ⅰ	12	1	8		平澤 正 (東京農工大学名誉教授) 中野明正 (千葉大学学術研究・イノベーション推進機構 特任教授)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学的視点で観察する目的が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。生物と農業生産Ⅰでは、作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
	生物と農業生産Ⅱ	18	1	12		小林信一 (静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部教授) 澤登早苗 (東京女子大学人間社会学部教授) 渡辺均 (千葉大学環境健康フィールド科学センター教授)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学的視点で観察する目的が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。生物と農業生産Ⅰでは、作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅰ	15	1	10		陽 捷行 (北里大学名誉教授、元農業環境技術研究所理事) 若林幹太郎 (学院院女子大学国際文化交流学部教授) 根本 久 (保生生物的防除研究所代表、元埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所長) 宇根 豊 (百姓・農と自然の研究所代表、東京農業大学客員教授)	地球の水・大気・土壌等の環境資源には限りがある。農業生産を持続的に遂行するためには、農業が持つ物質循環機能を活かす、環境と調和した農業生産を持続的に行わなければならない。農業の未来はここらもとならない。このため、環境資源、エネルギー等の資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業経営を営む必要性を学ぶ。資源・環境と農業生産Ⅱでは、農業と資源・環境との関係、植物防疫、生物多様性等について学び、資源・環境と農業生産Ⅱでは、有機農業の実践者等から様々な取り組みの実践例を学ぶ。
	資源・環境と農業生産Ⅱ	15	1	10		橋本力男 (堆肥・育土研究所代表) 小林 久 (茨城大学農学部名誉教授、いばらき自然エネルギーネットワーク代表) 相原成行 (有機農業実践者 (神奈川県藤沢市)、相原農場代表) 萩原紀行 (有機農業実践者 (長野県佐久穂町)、のらくら農場代表) 菊木克則 (有機農業実践者 (兵庫県丹波市)、柳丹波婦人農場代表)	現代日本の食料政策と農業政策について、その背景にある日本社会の構造変化や経済のグローバル化の流れを踏まえながら、基本的・包括的な知識を身につける。初回の講義で日本の食料・農業、農村政策の概要を把握し、続いて量と質の両面から国民の食の安全を確保する政策について論じる。そのうえで農業経営の育成に関わる担い手政策や農地制度の推移と現状、農業経営の成長を支える重要な要素である金融政策や技術政策を学ぶ。さらに地域とともに生きる農業経営という問題意識に立って、農村政策を学習する。
食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策	22.5	1.5	8	7	生源寺眞一 (福島大学食農学類教授) 安藤光義 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 江川章 (中央大学経済学部准教授) 室屋有宏 (桃山学院大学経営学部教授) 内田多喜生 (株) 農林中金総合研究所常務取締役) 長谷川晃生 (株) 農林中金総合研究所食農リサーチ部主任研究員) 小針美和 (株) 農林中金総合研究所食農リサーチ部主任研究員)	現代日本の食料政策と農業政策について、その背景にある日本社会の構造変化や経済のグローバル化の流れを踏まえながら、基本的・包括的な知識を身につける。初回の講義で日本の食料・農業、農村政策の概要を把握し、続いて量と質の両面から国民の食の安全を確保する政策について論じる。そのうえで農業経営の育成に関わる担い手政策や農地制度の推移と現状、農業経営の成長を支える重要な要素である金融政策や技術政策を学ぶ。さらに地域とともに生きる農業経営という問題意識に立って、農村政策を学習する。
	世界の食料・農業政策	15	1	10		生源寺眞一 (福島大学食農学類教授) 三石誠司 (宮城大学食産学学部教授) 阿藤(ル)アン・ウエイ (株) 農林中金総合研究所基礎研究部理事研究員) 野村弘明 (千葉大学大学院農芸学部教授) 小川栄次 (特定非営利活動法人NPLA 事務局長) 市田知子 (特定非営利活動法人NPLA 事務局長) 平清明彦 (株) 農林中金総合研究所取締役基礎研究部長) 市田知子 (明治大学農学部教授) 石井圭一 (東北大学大学院農学研究科准教授) 和泉真理 (一社) 日本協同組合連携機構客員研究員)	国によって食料政策や農業政策のあり方は多様であるが、多くの先進国には農業保護という共通項があり、途上国にあっては農家が継いで適度な政策のもとにおかれる傾向がある。本講義では、主要な先進国の食料・農業政策の骨格を学ぶとともに、成長著しいアジアの国々の食料政策の動向を把握する。各国の食料と農業の実態も反映されている。政策を手掛かりに海外の食料・農業事情を理解する。
食料・農業の法律と制度		15	1		10	松原明記 (農林水産省大臣官房検査・監察部長) 内藤忍久 (農林水産政策研究所 所長) 武田泰明 (特定非営利活動法人アリアン GAP総合研究所 専務理事)	食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に体系的に習得する。

社会力領域

農業経営者に求められる農業経営環境や諸制度を中心に学び、環境に適応し、かつ環境を創造しうる資質、能力、態度を育む。

学群	科目	授業時間	単位	開講時期・時限数		担当講師	概要
				1年 前期 後期	2年 前期 後期		
社会力入門	フードシステム論	12	1	8		中嶋康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 中嶋晋作 (明治大学農学部准教授)	食と農とそれらを支える社会的枠組みの現状と課題をフードシステムの概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を社会科学的視点、特に経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法を身に付けることを目的とする。
	食生活と食文化	12	1		8	武見ゆかり (女子栄養大学栄養学部教授) 小岩井馨 (女子栄養大学栄養学部助手)	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因も含め構造的に整理し、国際的にも評価が高い日本の伝統的な食文化に関する理解を深めることを目的とする。
	農山村の再生戦略	24	1.5	8		岡司直也 (法政大学現代福祉学部教授) 狂林幹太郎 (学習院女子大学国際文化交流学部教授) 橋口卓也 (明治大学農学部准教授) 筒井一伸 (駒取大学地域学部教授) 佐久間康富 (和歌山大学システム工学部准教授) 神代英昭 (宇都宮大学農学部准教授) 山浦陽一 (大分大学経済学部准教授)	農山村をめぐる課題は、農業や産業・経済のみでなく多面的である。「生活」「資源」「コミュニケーション」を含め、その総合的な状況の中で、地域の再生をいかに進めていくかを考えなくてはならない。政策のあり方や農業経営者として(あるいは集落の一員として)の振る舞い方を含め、自らの地域の内発的発展を実現する理論と実践(基盤)を身に付ける。
農村地域の活性化	協同組合論	15	1	10		小林元 (一社) 日本協同組合連携機構 基礎研究部長) ほか	協同組合を運動 (association) と事業 (enterprise) の矛盾の統合体として捉え、協同組合の基本原理を踏まえつつ、今日協同組合の実態と課題を学ぶ。第1に、協同組合は歴史的な存在形態であるから、成立から今日までを歴史的に学ぶ。第2に今日の農と食にかかるとして協同組合として、生活協同組合 (消費者購買生協) と農業協同組合 (総合農協=JA) を対象として、その運動と事業の展開と仕組みを学ぶ。第3に、地域でみられる「新しい協同」の動きから、協同組合に求められる社会での役割を検討する。
	集落営農とJA出資型農業法人	15	1	10		小林元 (一社) 日本協同組合連携機構 基礎研究部長)	集落営農を①「むら」(地域と地域資源)、②「農法」(技術の発展)から捉え、歴史的発展と今日の集落営農の発展とそれとの意義を理解することを目指す。第1に、協同組合は地域の集落に合わせた多様な発展がみられることから、地帯構成区分に注目して、さまざまな集落事例のケーススタディからその要点を学ぶ。そして単に集落営農を農業生産の組織化に矮小化することなく、地域づくりに関する視点から読み解くことで、受講者自身が将来地域のリーダーとして活躍することを期待し、その一助となることを目的とする。
	農業と女性	15	1		10	安倍澄子 (前) 日本女子大学客員教授) 原珠里 (東京農業大学国際食料情報学部 教授)	農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に向けて農山村女性を取り組み活動状況や問題・課題を理解するとともにこの女性活動が地域活性化に運動するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、地域社会の新たな動きを創り出す資質・能力を身に付けることを目的とする。
	地方行政との連携・協働	15	1		10	申鏡鏡 (日本農業経営大学校 専任講師) ほか	農業、地域づくりに関する市町村の首長や職員の前端的な政策や発想、地域への波及効果について、当事者およびそれらの詳細に詳しい方々から学ぶ。これまでに進めてきた政策を具体的に紹介し、それらが生まれた背景、現状、達成点、今後の課題について講義していただく。あわせて、これからの農業の方向性、若い農業者に期待される役割を検討していく。

農業経営者に求められる倫理観、哲学、使命感を学び、それらを深化、統合、発展していく資質、能力、態度を育む。

人間力領域

学群	科目	授業時間	単位	開講時期・時限数		担当講師	概要	
				1年 前期	2年 後期			
人間力入門	経営者のための社会学	15	1	10		三田泰雅 (四日市大学准教授)	社会は無数の人々が持つ持たれつたれつたの共同生活を送ることで成り立っている。この共同生活は生きてゆく上で様々な助けとなる「きずな」の源であると同時に、自らの助けとなる「しがらみ」でもある。経営者には、この社会の特性を理解し洞察する幅広い教養が求められる。	
	経営者のための哲学	9	0.5	6		大平浩二 (明治学院大学名誉教授)	次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な判断力・思考力として日本を取り巻く諸環境の分析能力の基礎を身につけることを目的とする。講義では、世界の政治・経済状況の変化、経済や経営の基本を学んだ上で、第一線で活躍する各々の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、自らの農業経営のあり方を考える。	
	経営者のための心理学	9	0.5	6		丸山琢真 (組織再生コンサルタント・株式会社エバーブルー 代表取締役)	農業経営は組織的な視点が不可欠となっている。農業に従事しようとする人たちの心理を理解し、集団活動において生じる集団心理的な力を学び、周囲に良好な関係性を形成するために適切に対処する知識と技術の習得を目的とする。	
	経営者としてのリーダーシップ	15	1	10		桑島健也 (農研機構 本部MARO開発研究センター 主席研究員、元公益財団法人松下政経塾 研修部担当)	農業経営をおこなう上で知るべき心理学として、集団形成と発達の側面および組織マネジメントの側面に着目し、この二つの視点をバランスよく取り扱ひ、座学と経験学習 (グループによるアクティブラーニング) を行う。	
	地域・農村のリーダーシップ	15	1	10		門間敏幸 (東京農業大学名誉教授)	農業経営者に求められるリーダーシップについて考え、これからの農業経営を取り巻く課題を踏まえて自らの経営理念を策定し、リーダーに必要知識を素養を学び、その資質を培うことを目的とする。2年次の「事業計画書」作成に向けた基礎的な講座と位置づけ、学生同士の検討会、プレゼンテーションを経て、各自の「事業趣意書」を作成する。	
グローバル発想	農業経営者実践論	15	1	4	6	木之内均 (東海大学経営学部長 教授、(有) 木之内農園 代表取締役会長) 竹本彰吾 ((有) たけもと農場 代表取締役) 平出賢司 ((有) エフ・エフ・ヒライデ 代表取締役) 光元信能 (農事組合法人世羅幸水農園 組合長理事) 山田広治 ((有) サニタスガーデン 代表取締役)	規模や作目の異なる農業経営者を招聘し、企業の社会目的や理念、経営の歴史と実際の経営内容、経営の特徴などを解説する。展開の経緯とその間の各種の工夫や苦労、経営者の心がまえについて直接語ってもらい、経営に必要な資本・労働・農地の3要素、手当てすべき資金、販売戦略、技術導入等を解説いただく。	
	日本農業史	15	1	10		岩本純明 (東京大学名誉教授) 堀口健治 (日本農業経営大学校長)	日本農業の近現代史を理解するため、農業史を捉える視角を紹介しつつ、授業を進める。明治時代から第2次世界大戦の敗戦、農地改革、途上国日本の農業、農村の歴史を学び、近代化先進国に入る日本のあり方よりを理解する。戦後の農地改革は日本社会にとつて大きな意味を持つ。その後の日本農業を取り巻く、高度成長・基本法農政、貿易体制・少子高齢化・耕作放棄・自給率低下・新たな担い手という現代史を学ぶ。	
	語学	64	2	9	12	9	English Central 担当者 ECC 担当者	農業経営に必要な情報が、グローバルに行き来している現在、情報を直接知る技能が必要であり、なにより世界で最も汎用的な言語である英語が重要となる。授業は、実践的な英会話の基礎力を身に付けることを目的とする。

実習・演習等

現地実習、ゼミ、経営計画策定演習、総合的学習、卒業研究、特別講義、特別活動

区分	授業時間	単位	実施時期・頻度	概要
現地実習	630	14	1年次・7月～10月（4か月間）	全国各地の先進的農家・農業法人において実習し、優れた農業経営と技術を体感するとともに、先進的な経営者から価値観、経営感覚、リーダーシップ取りなどをトータルに学び取り、将来農業経営者となるための自らの課題を認識する。派遣先は、学生が自指す将来の農業経営のあり方から選定し、学生自らの意思で決定する。
	450	10	2年次・7月後半～10月前半（3か月間）	農業に関連する企業を中心に農業生産以外の企業で実習する。（例：食品メーカーの加工現場での実習、食品スーパーでの店頭販売の実習等。）講義で学ぶ経営やマーケティング等を企業の実習を通じて学ぶことを目的とする。企業での実習を通じて農業の新たな価値・可能性と課題を発見し、卒業後の農業経営に向けて、自らのあり方を見極める。
	150	4	2年間を通じて週1～2回程度 （現地実習期間を除く）	先進的農業経営の実践事例や先進的農業技術の導入事例、地球農業の活性化や地域資源を活かした地域づくり、食料・農業・農村の様々な課題等について、少人数のゼミ形式で学生の発意を中心とした事例研究等を行い、学生主体の調査研究、発表、討議等を繰り返すことにより、将来の経営者、地域リーダーとしての情報収集・分析能力、企画力、行動力、合意形成能力等の涵養を図る。
	60	2	合同ゼミ	
ゼミ	15	0.5	2年次前期	経営計画を含む事業計画の概念を理解し、これらの作成の仕方やそのために必要な情報や資料の集め方を学ぶ。その上で、初歩的な事業計画を作成して発表し、討論等を行うことで計画の水準を上げていく。
	15	0.5	1年次後期	マーケティング・リサーチは市場（マーケット）や顧客、生活者を理解すること、そして実際にアクションにつなげるための情報を得るための技術であり、テクニックである。経営者として、「行動につながる情報」を得るためのテクニックを学ぶ。デスクリサーチから、調査票によるアンケート調査、ヒアリング調査といった技術について座学と演習で学ぶ。
経営計画策定演習	15	0.5	1年次後期	「戦略マネジメントゲーム」を通じて、企業活動のポイントを理解し、戦略活動・数字感覚・組織・立場・役割の理解を目指す。また、経営者として必要な技能・知識（マネジメント能力）を身につけると共に経営感覚を養い、併せて意思決定で重要なツールである管理会計の体系的な理解を目的とする。
	15	0.5	1年次後期・2年次前后期	農業経営が利益獲得を図るための農業生産活動を検討する経営シミュレーションの方法を学ぶ。農業経営の持続的な展開には、経営内外の環境変化に応じた計画立案、実践、評価、改善が求められる。特に、実践する経営計画は極めて重要であり、そのために、経営計画を事前に評価しておく必要がある。そこで、具体的な経営シミュレーションの実践を通じて、経営計画の立案手法を身につけることを目的とする。
総合的学習	35	1	1年次後期～2年次前期中 週1回程度	学生が講義や現地実習等で得た興味・関心に基づき、創意工夫を生かした教育活動を行う。（例：学生が各講義や実習で学んだ知識や経験を総合的に生かし、模擬経営を行う等。）これらにより、学生の課題解決能力を育成する。
卒業研究	150	5	2年次後期	2年間で学んだことの集大成として、卒業後に自らの農業を実践する上で必要となる経営計画を作成する。その過程で、食や農業に関わる新しいビジネスモデルの提案等、学生自らの関心に即した調査研究を行う。
特別講義	90	3	2年間を通じて月2回程度 （現地実習期間を除く）	農業界、産業界、学界等、各界で活躍する多彩な講師を招聘し、講義及びディスカッションを行う。（例：農業経営者を招聘する「わが経営を語る」、食品関連等企業経営者を招聘する「学生に伝えたい私からのメッセージ」、食品・流通企業最新情報」、学生の希望する各界講師を招聘する「この人の話を聴きたい」等。）
	15	0.5	前期または後期を通じて 月1～2回程度 （現地実習期間を除く）	体育的活動として、体カトレーニング、球技、ダンス、ヨガ、武道などの中から実施可能なものを適宜行う。
特別活動	15	0.5	前期または後期を通じて 月1～2回程度 （現地実習期間を除く）	文化的活動として、美術展や古典芸能の鑑賞、音楽活動、座禪、書道、華道、茶道、棋道などの中から実施可能なものを適宜行う。
	40	—	1年次・6月（4泊5日）	1年次前期（6月）に4泊5日で、先進農業経営体等の現地視察等を行う。
学校行事	140	—	随時	入学式、派遣実習決意表明、派遣実習報告会、卒業研究発表会、卒業式のほか、球技大会、ハイキング、登山等の学校行事を行う。

経営力領域シラバス

(領域) 経営力	(学群) 経営力入門		
(科目名) マーケティング入門	単位数 開講期	1 単位 1 年次 前期	
担当講師	折笠 俊輔 [(公財) 流通経済研究所 主席研究員]		
授業のねらい	本講義では、マーケティングの定義や考え方を中心に扱う。後期に開講予定の食農連携マーケティングや食品流通論を受講する上での前提となる理論や知識を確認する。また、グループワークによる課題等を経験するという意味でも入門的な講義として位置づけている。		
授業の概要	経営領域のコアとなるマーケティングの入門的な講義を実施する。さまざまなケースを中心にマーケティングの成功要因を自ら考えることに重点を置く。また、マーケティングに携わっている実務家を招聘し、実践的な話を聴く機会を設ける。		
授業計画	第1講 マーケティング発想とは何か 第2講 マーケティングの基本的な用語と意味合い 第3講 マーケティング・ケース① 第4講 マーケティング・ケース② 第5講 マーケティング・ケース③ 第6講 関係づくりマーケティング 第7講 グループワーク：マーケティング戦略の実践 第8講 B2Bマーケティング：ゲスト・レクチャー① (予定) 第9講 B2Cマーケティング：ゲスト・レクチャー② (予定) 第10講 思想としてのマーケティング		
履修上の注意 (準備学習等)	成績については、講義への貢献(発言、グループワークへの積極的な参加)、必須課題、自主課題によって、決定する。また、講義の欠席には追加課題にて対応する。講義進行の妨げとなる行為を続ける者には、講義の出席を認めない。講義終了後も、本講義の内容については各自継続して学び続けることを期待する。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 石井 淳蔵 (著)、「1からのマーケティング」2009年、碩学舎 (第3版) 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー 著、恩藏直人 監修、月谷真紀 訳。コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント。丸善出版、東京、2014 フィリップ・コトラー、ヘルマワン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン 著、恩藏直人 監訳、藤井清美 訳。コトラーのマーケティング4.0：スマートフォン時代の究極法則。朝日新聞出版、東京、2017 クレイトン・M・クリステンセン、タディ・ホール、カレン・ディロン、デイビッド・S・ダンカン 著、依田光江 訳。ジョブ理論：イノベーションを予測可能にする消費のメカニズム。ハーパーコリンズ・ジャパン、東京、2017 ヘンリー・ミンツバーグ、ブルース・アルストランド、ジョセフ・ランペル 著、齋藤嘉則 監訳。戦略サファリ：戦略マネジメント・コンプリートガイドブック。東洋経済新報社、東京、2013 		

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">• 森岡毅, 今西聖貴 著. 確率思考の戦略論 = Probability strategy for marketing : USJでも実証された数学マーケティングの力. KADOKAWA, 東京, 2016 |
|--|--|

(領域) 経営力	(学群) 経営力入門		
(科目名) 農業簿記	単位数 開講期	2単位 1年次 前期・後期	
担当講師	野島 一彦 [学校法人大原学園 教育事業部第3教育部 部長代理] 西山 由美子 [税理士、にしやまゆみこ税理士事務所 所長]		
授業のねらい	農業経営に必要な、日常の帳簿記帳から決算までの会計に関する知識を習得し、農業簿記の特徴を理解することで、財務諸表を農業経営に生かす基礎知識を身につけることを目的とする。		
授業の概要	農業簿記検定の教科書・問題集を使用して、簿記の基本から、農業特有の取扱いを踏まえた日常的な記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成までを演習を多く取り入れながら学習し、1年次前期において農業簿記検定3級試験の合格を目指す。第17講以降は後期プログラムとし、簿記・会計の実務に関することから取り上げる。		
授業計画	第1講 農業簿記検定3級 第1章 農業簿記の概要 [野島] 第2講 同第2章 (1)取引とは (2)仕訳と転記 [野島] 第3講 同 (3)仕訳帳と総勘定元帳 [野島] 同 (4)伝票による仕訳と総勘定元帳への転記 [野島] 第4講 同 (5)主要簿と補助簿 (6)試算表の作成 [野島] 第5講 同第3章 勘定科目 [野島] 第6講 同第4章 農業の収益 [野島] 第7講 同第4章 農業の費用 第5章 現金、現金過不足 [野島] 第8講 同第5章 小口現金、普通預金、売掛金 [野島] 第9講 同 棚卸資産1・その他の流動資産、流動負債、資本金 [野島] 第10講 同第6章 有形固定資産、修繕費と資本的支出、売却 [野島] 第11講 同第7章 棚卸資産2 [野島] 第12講 同第7章 減価償却 [野島] 第13講 同第7章 貸し倒れ、繰り延べ、見越し [野島] 第14講 同第7章 簿記一巡の流れ、事業主勘定 [野島] 第15講 3級 確認テスト解説 [野島] 第16講 3級 まとめ講義 [野島] 第17講 農業簿記検定2級 第7章 交付金・補填金 第3章 減価償却(復習)・圧縮記帳 [西山] 第18講 同第7章 消費税の概要と会計処理 [西山] 第19講 会計ソフト・クラウド会計の概要と実務における運用 [西山] 第20講 青色申告決算書/貸借対照表・損益計算書・製造原価報告書 [西山]		
履修上の注意 (準備学習等)	電卓を持参のこと。毎回の授業後には復習を重点的に行い、教科書に記載の設例(次の取引の仕訳を行いましょう)を3回以上解くこと。 第15講確認テスト解説は、事前に確認テストを解き、当日はその内容を解説する。 出席状況、授業態度のほか、農業簿記3級の可否も加味して成績評価する。		
教科書	『農業簿記検定教科書3級(第2版)』、『農業簿記検定問題集3級(第2版)』 『農業簿記検定教科書2級(第4版)』、『農業簿記検定問題集2級(第4版)』 全国農業経営コンサルタント協会/学校法人大原学園大原簿記学校(大原出版) 『農業簿記検定過去問題集3級』、『農業簿記検定過去問題集2級』(日本ビジネス技能検定協会)		
参考書	なし		

(領域) 経営力	(学群) 経営戦略		
(科目名) 農業・食の経営戦略	単位数 開講期	2単位 1年次 前期・後期	
担当講師	上原 征彦 [公益財団法人流通経済研究所 理事・名誉会長]		
授業のねらい	本講義では、農業経営における競争優位を見つけ出し、事業を生存・成長させていくための戦略を立案していく思考能力、それを実行に結びつける実務能力を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	<p>経営を展開していく上で、必要な戦略を策定・遂行・評価するプロセスについての基礎的な理論と、その応用を身につけるための講義である。</p> <p>本講義の前期は、主として、一般の経営戦略論で培われた有効な知見を学び、次にこれを踏まえつつ、ケースメソッドを活用して実践に応用する力を養う。後期では、前期で学んだ経営戦略理論を農業経営に活用していく場面を想定し、そこから実践的な定石を習得していく。ここでは、農業経営について、様々な角度から受講者と教師とのディスカッションを深めつつ、より現実的な問題にアプローチしていく。本講義では、農業経営が抱える現実の問題点とその解決方法について多様なアイデアを創出することに特に力を入れたい。</p>		
授業計画	<p><前期></p> <p>第1講 経営戦略論の意味と意義</p> <p>第2講 経営戦略の効果についての事例（失敗と成功）</p> <p>第3講 環境分析と経営資源分析</p> <p>第4講 コアコンピタンスと強みの構築</p> <p>第5講 競争優位をどう構築するか</p> <p>第6講 経営の機能：「金づくり」「組織づくり」「顧客づくり」</p> <p>第7講 顧客志向型経営をどうデザインするか</p> <p>第8講 経営とブランド戦略</p> <p>第9講 経営戦略とDX</p> <p>第10講 日本農業の戦略的課題</p> <p><後期></p> <p>第1講 食の産業構造とその変化</p> <p>第2講 食の流通とその変化</p> <p>第3講 食と農業の関連づけ</p> <p>第4講 農業経営の多角化</p> <p>第5講 農業経営とブランド戦略</p> <p>第6講 農業と地域ブランドの構築</p> <p>第7講 ビジネスからみた農業</p> <p>第8講 世界からみた日本の農業経営</p> <p>第9講 農業経営者に必要な資質</p> <p>第10講 DXと農業経営</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	前回の授業を理解していることを前提に次回の授業を行なうので、必ず復習をしておくこと。		
教科書	上原征彦・他（2015）『農業経営：新時代を切り開くビジネスデザイン』丸善出版		
参考書	上原征彦（1999）『マーケティング戦略論』有斐閣		

(領域) 経営力	(学群) 経営戦略		
(科目名) 農業経営学	単位数 開講期	1.5単位 1年次 前期	
担当講師	南石 晃明 [九州大学大学院農学研究院教授] ほか		
授業のねらい	<p>本科目では、学際的・国際的な視野に立って農業経営発展に資する経営管理の理論と方法について学ぶ。農業は地域に根差した産業であるが、次世代の農業経営には、他産業や海外農業の動向・発展方向についても理解をし、地球的・長期的な視点から経営戦略の策定とその効果的な実行を行うことが求められている。そこで、多様な農業経営の発展過程とその経営管理について、理論および方法の両面から理解すると共に、実践的な農業経営管理手法を身に付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>本科目では、農業経営の多様性、経営発展、経営戦略について概説すると共に、ゲスト講師による経営管理の実践、農業経営環境の変化と次世代農業経営について述べる。また、農業経営におけるリスク、情報、人材のマネジメント、さらには実践的な農業経営手法の基礎となる農業経営計画と意思決定の理論やについて概説する。なお、実践的な内容とするため、先駆的な農業経営者をゲスト講師とすると共に、演習的な内容も取り入れた授業を行う。</p>		
授業計画	<p>第1講 農業経営の発展と戦略1 第2講 農業経営の発展と戦略2 第3講 農業経営におけるリスク、情報、人材のマネジメント1 第4講 農業経営におけるリスク、情報、人材のマネジメント2 第5講 加工業務用野菜作経営の経営戦略と今後の展望1 第6講 加工業務用野菜作経営の経営戦略と今後の展望2 第7講 研究開発型農業経営の経営戦略と今後の展望1 第8講 研究開発型農業経営の経営戦略と今後の展望2 第9講 生産・コンサルティング・M&A事業複合経営の経営戦略と今後の展望1 第10講 生産・コンサルティング・M&A事業複合経営の経営戦略と今後の展望2 第11講 農業経営計画と経営意思決定1 第12講 農業経営計画と経営意思決定2 第13講 農業経営の環境変化と次世代農業経営のビジョン1 第14講 農業経営の環境変化と次世代農業経営のビジョン2 第15講 農業経営の環境変化と次世代農業経営のビジョン3 (注意：ゲスト講師の都合等により講義の順番は変わる可能性がある)</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>農業および農業経営について基礎的な理解をしていることを前提に授業を行うため、新聞記事や参考図書を活用して、問題意識をもって授業に臨むこと。</p>		
教科書	『農業経営者が語る「経営の極意」』(冊子配付)		
参考書	『農業におけるリスクと情報のマネジメント』南石晃明(農林統計出版) 『農業経営』大泉一貫、津谷好人(実教出版) 『稲作スマート農業の実践と次世代経営展望』南石晃明(養賢堂) 『TPP時代の稲作経営革新とスマート農業』南石晃明ら(養賢堂) 『次世代土地利用型農業と企業経営』日本農業経営学会(養賢堂) 『農業革新と人材育成システム』南石晃明ら(農林統計出版)		

(領域) 経営力	(学群) 経営戦略		
(科目名) 情報戦略の理論と実践	単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期	
担当講師	上原征彦〔公益財団法人流通経済研究所 理事・名誉会長〕 中麻弥美〔株式会社コムテック 22 シニアコンサルタント〕		
授業のねらい	本授業では、経営・マーケティング活動における情報戦略について幅広く学習し、情報技術等を有効に活用したイノベーションの実現、顧客・異業種との新たなリレーションの構築、農産物の販売手法の拡充等、情報をいかに戦略的に活用していくかを実践的に学習することを目的としている。		
授業の概要	デジタル社会における情報戦略の基礎知識の習得を目指し、その上で経営戦略に結びつくDX (Digital Transformation) 等へ講義内容を展開させつつ、ケース・スタディやゲスト講師による講義を通じて、戦略的に情報を活用する方法を学習する。 また、今後の農業経営者にとって必須となる情報戦略についても事例を活用し、理解を深めていく。 本講義では、ケースによるグループワークの機会を設け、ディスカッションを通じて課題解決の方向を探っていく。		
授業計画	第1講 情報戦略の進化 -ITからDXへ- 第2講 デジタル社会でのビジネスの高度化 第3講 情報戦略のケース・スタディ (1) 第4講 情報戦略のケース・スタディ (2) 第5講 流通情報システムについて (1) 第6講 流通情報システムについて (2) 第7講 農業における情報戦略 (1) ※ゲスト講師を予定 第8講 農業における情報戦略 (2) 第9講 情報戦略の今後の展望 (1) ※ゲスト講師を予定 第10講 情報戦略の今後の展望 (2)		
履修上の注意 (準備学習等)	本講義では、教科書を熟読しておくこと。		
教科書	上原征彦、中麻弥美「手にとるように小売・流通がわかる本」かんき出版、2019年。 田中道昭「アマゾンが描く2022年の世界」PHPビジネス新書、2018年。		
参考書	とくになし		

(領域) 経営力	(学群) 経営戦略		
(科目名) 経営組織論と農業		単位数 開講期	1 単位 2 年次 後期
担当講師	田口光弘〔農研機構 農業経営戦略部 上級研究員〕ほか		
授業のねらい	<p>本講義では、農業経営の規模拡大が全国的に進展し、雇用就農者が増加している背景を踏まえ、雇用型家族経営や雇用型農業法人を念頭に、組織づくりや人的資源管理の視点から農業経営を論じる。具体的には、従業員の能力開発および成長が組織の成長の一大要因と捉え、組織内の役割分担や情報共有・情報活用の仕組みづくりといった組織づくりに関する理論と実態、および従業員の育成やモチベーション向上などの人的資源管理の理論と実態について論じる。</p> <p>農業経営を含むあらゆる業種の経営において、人的組織をどのように形成し活性化して、高い生産力を上げていくかという点は、重要な経営管理の領域である。特に家族経営が主である農業経営では、これまで必要性が小さい管理領域であり、近年、雇用型経営が増える中で組織づくりと人的資源管理の重要性が増している。</p> <p>本講義においては、農業法人の経営者を含む実務者による講義も予定している。</p>		
授業の概要	<p>授業では、一般経営学の組織論や人的資源管理論の視点を導入して、農業経営における組織づくりと人的資源の問題を考える。農業経営においては、作目により雇用労働力の活用内容や程度が異なることから、作目別に、組織体制の特徴や従業員の育成方策について述べるとともに、経営情報を活用したPDCAサイクルの実践方策について教授する。授業においては、実務者からの講義、および実務者と学生との意見交換を通じて、学生の理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1講 雇用型経営における組織づくりと人的資源管理 (1) 第2講 雇用型経営における組織づくりと人的資源管理 (2) ※第3講以降、実務者も交えた講義形式とする。講義の内容と順番は変更の可能性あり。 第3講 水田作経営における経営組織と人的資源管理 (1) 第4講 水田作経営における経営組織と人的資源管理 (2) 第5講 施設野菜作経営における経営組織と人的資源管理 (1) 第6講 施設野菜作経営における経営組織と人的資源管理 (2) 第7講 露地野菜作経営における経営組織と人的資源管理 (1) 第8講 露地野菜作経営における経営組織と人的資源管理 (2) 第9講 水田作経営 (6次産業化) における経営組織と人的資源管理 (1) 第10講 水田作経営 (6次産業化) における経営組織と人的資源管理 (2)</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>事前に、(株) 野菜くらぶ代表 澤浦彰治『農業で利益を出し続ける7つのルール』ダイヤモンド社、2010年を読んでおくことが望ましい。成績評価は、出席率と、コメントペーパーも含む授業態度をもとに行う。</p>		
教科書	<p>特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。</p>		
参考書	<p>『経験から学ぶ人的資源管理 新版』上林憲雄ら (有斐閣、2018年) 『大規模施設園芸における組織づくりと人的資源管理』田口光弘 (農研機構 研究成果パンフレット、2020年 https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134886.html よりダウンロード可) 『農業法人における人材育成のポイントー現場リーダーの作業遂行マネジメント能力育成に向けた取組ー』田口光弘・若林勝史 (農研機構 研究成果パンフレット、2017年 https://fmrp.rad.naro.go.jp/publish/ よりダウンロード可) 『農業法人における人材定着施策と改善ツール』澤田守ら (農研機構 研究成果パンフレット、2018年 上記サイトよりダウンロード可)</p>		

(領域) 経営力	(学群) 流通・マーケティング		
(科目名) 消費者の心理と行動	単位数 開講期	1 単位 1 年次 前期	
担当講師	神谷 渉 [玉川大学経営学部国際経営学科准教授]		
授業のねらい	本講義では、消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どのような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合うのか、それらによってどのような結果が生じるかについて学ぶ。		
授業の概要	<p>まず消費者行動とマーケティングとの関係をはじめ、消費者の心理や行動を知ることがどうして重要なのかを説明する。次に、消費者の購買意思決定プロセスに沿って消費者の行動に至るプロセスを学ぶ。その中では、どのようにして行動が起こされるのか、記憶される情報とはどのようなものか、満足とは何なのか、ライフスタイルや個人の属性が消費にどのような影響をもたらすのかといったことについて触れる。</p> <p>並行して、消費者の心理や行動を把握するための手法として、マーケティングリサーチについて触れる。手法について説明した後、簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。</p>		
授業計画	<p>第1講 消費者の行動と心理、マーケティングリサーチの基礎</p> <p>第2講 消費者の購買意思決定プロセス①：問題認識と動機付け</p> <p>第3講 消費者の購買意思決定プロセス②：情報探索と記憶・知覚プロセス</p> <p>第4講 消費者の購買意思決定プロセス③：代替案選択と購入、購買後評価 (課題) 質問紙の作成</p> <p>第5講 マーケティングリサーチの実践：質問紙の改善</p> <p>第6講 マーケティングリサーチの実践：集計・分析の方法 (課題) アンケートの実施と集計</p> <p>第7講 マーケティングリサーチ課題の発表と講評</p> <p>第8講 消費者の行動/心理の実務的応用</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングリサーチの実践として、実際にアンケートの実施・結果報告をしてもらうので、指示する授業外の課題を行ってこよう。 ・ あくまで概要の講義であるため、より深く学習したい人は参考書を読み進めることを推奨する。 		
教科書	特に指定しない。プリント等を配付する。		
参考書	<p>『消費者行動の知識 (日経文庫)』青木 幸弘 (日本経済新聞出版社)</p> <p>『消費者行動論—マーケティングとブランド構築への応用 (有斐閣アルマ)』 青木 幸弘、他 (有斐閣)</p> <p>『アンケート調査入門』朝野 熙彦 (東京図書)</p>		

(領域) 経営力	(学群) 流通・マーケティング		
(科目名) 食農連携マーケティング	単位数	2単位	
	開講期	1年次 後期	
担当講師	三村 優美子 [青山学院大学名誉教授] 矢嶋 剛 [國學院大學経済学部兼任講師、矢嶋ストーリー]		
授業のねらい	<p>今、従来の大量生産・大量販売を背景としたプロダクト（工業製品）ベースではなく、顧客視点を強調したマーケティング、さらに文化や伝統、地域社会の繋がりを重視した経験価値ベースのマーケティングが注目されている。本講義では、自然景観、風土、食文化、そして農業との一体化を目指すイタリアやフランスの農村地域に代表される付加価値の高い農業生産、地域ブランド化など、地域社会・農業の価値を活かす新しいマーケティングの枠組みを理解し身に付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>本講義では、地域社会・農業の視点に立って、農業生産・加工・販売と生活者の食卓までを繋いでいくマーケティングを食農連携マーケティングと定義した上で、その基本的な考え方から実践に至るまで、講義や討議、事例研究を通じて学ぶ。</p> <p>まず、マーケティングの基本的な視点や考え方を確認したうえで、地域共生を目指す新しいマーケティングが登場している背景や理由を、消費社会や流通の変化と関連づけて説明する。ここでは、顧客関係、ブランド、マーケティング・コミュニケーション、経験価値、価値共創の取り組みなど、食農連携を進めるために重要な鍵概念に注目する。そして日本のスローフードや地域ブランド構築を試みている事例を取り上げ、その可能性や課題について理解を深める。最後に食農連携マーケティングをどう進めるかについてグループによる討議と企画・提案を予定している。</p>		
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション [内容]全体を統括した話+問題提起 ＜食農連携マーケティングの基本的考え方＞</p> <p>第2講 サービス価値ベースのマーケティング登場の背景とその考え方</p> <p>第3講 変わる消費社会と生活価値観（消費文化・社会的視点から）</p> <p>第4講 顧客起点と顧客との関係づくり</p> <p>第5講 ブランド化はなぜ必要なのか</p> <p>第6講 経験価値のマーケティングについて</p> <p>第7講・第8回 食農連携マーケティングの実践事例の研究</p> <p>第9講 生活者の視点から食を考える</p> <p>第10講 農業における地域ブランドの有効性について</p> <p>第11講・第12講 食農連携マーケティングの提案（グループ研究）①</p> <p>第13講・第14講 食農連携マーケティングの提案（グループ研究）②</p> <p>第15講・第16講 食農連携マーケティングの提案（グループ研究）③ （中間まとめ）</p> <p>第17講・第18講 食農連携マーケティングの提案（グループ研究）④</p> <p>第19講・第20講 まとめ（グループ研究の最終報告と総合討議）</p>		

履修上の注意 (準備学習等)	「マーケティング入門」を習得し、マーケティングについての基礎知識を踏まえた上で、授業に臨むこと。
教科書	特に指定しない。講義内容に合わせて資料等を配付する（パワーポイント使用）。
参考書	<p>『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵（ちくま新書）</p> <p>『老舗ブランド「虎屋」の伝統と革新』長沢伸也・染谷高士（晃洋書房）</p> <p>『第四の消費―つながりを生み出す社会へ』三浦展（朝日新書）</p> <p>『地域ブランドマネジメント』電通abic project編（有斐閣）</p> <p>『なぜイタリアの村は美しく元気なのか』宗田好史（学芸出版社）</p>

(領域) 経営力	(学群) 流通・マーケティング		
(科目名) 食品流通論		単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期
担当講師	高橋 佳生 [(公財)流通経済研究所 特任研究員] 江口 法生 [(一社)日本スーパーマーケット協会専務理事]		
授業のねらい	<p>流通とは生産と消費の隔たりを橋渡しするための多様な社会的・経済的な活動である。日本の流通は先進諸外国と比較して幾つかの異なる特徴を持っているが、近年、人口減少やeコマースの伸展の影響を受けて大きく変化しつつある。</p> <p>本講義では、流通の定義・概念について述べ、流通が果たす社会的な役割、流通の機能について、具体的な事例を交えて解説し、その基本を学ぶ。さらに講義内では、消費財全般の流通チャンネルの変化や、独禁法等の法規制、eコマースの影響といった最新のトレンドにも触れていく。また、農業・食品産業にかかわる流通についての講義も実施することで、農業経営者として実務で活用できる知識の習得を目指すものとする。</p>		
授業の概要	<p>流通には、生産者と消費者とが異なるという隔たりを取引で架橋する商流、生産する場所と消費する場所を結びつける物流、生産と消費の間で情報の受け渡しを担う情報流が含まれる。</p> <p>本講義では、まず、こうした流通の基本的な概念・機能を述べ、流通の中心となる商業およびその中の小売業、卸売業の概念と構造について解説する。続いて、近年のネット流通の進展や規制緩和が流通の仕組みや活動にもたらす変化、大手メーカーによるブランド戦略、マーケティング・チャンネルの形成、消費者の購買行動の変化、物流システムの高度化等について論じていく。消費財、特に加工食品・農産物の領域を中心に授業を進め、具体的な事例をいくつか取り上げてクラスで論じ、理解を深めていく。</p>		
授業計画	<p>第1講 流通・商業とは/商品別の流通 [高橋] 第2講 商流(取引の仕組みとFC・VC等) [高橋] 第3講 物流 [高橋] 第4講 情報流・消費者の購買行動 [高橋] 第5講 卸売業の分類と機能 [高橋] 第6講 メーカーのブランド・流通戦略・eコマース [高橋] 第7講 小売業の特性と発展の歴史 [高橋] 第8講 「シナリオ2030」が描く「日本のスーパーマーケット」 [江口] 第9講 独占禁止法と農業 [高橋] 第10講 今後の流通の変化(eコマースやDX等) [高橋]</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	「マーケティング入門」を理解していることを前提に授業を行う。		
教科書	『現代流通』矢作敏行(有斐閣アルマ) 『シナリオ2030 ~2030年に向けたスーパーマーケット業界の課題と展望~』		

参考書

『ゼミナール 流通入門』 田島義博／原田英生編（日本経済新聞社）

『流通機構の話』 田島義博（日経文庫）

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) 会計・ファイナンスと農業	単位数 開講期	2単位 1年次後期・2年次前期	
担当講師	森 剛一 [税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株)代表取締役]		
授業のねらい	農業経営を数字によって把握するとともに、金融機関などの利害関係者に的確に説明できる能力を磨く。また、農業経営を発展させるための経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	この授業では、まず、生物を対象としたものづくりとしての農業の会計の特徴、農畜産物の原価計算のしくみを理解する。次に、モデルとなる農業法人の財務諸表を題材とした演習方式により、経営の課題について受講生どうしの討議を行うことで、財務諸表の見方や経営分析の手法を学ぶ。また、融資、投資の違いなど資金調達に必要な知識とスキルを習得し、実践的な経営計画の策定とその運用のポイントについて学ぶ。		
授業計画	第1講・第2講 農業簿記の基礎、記帳体系、農業の会計に関する指針 第3講・第4講 材料費会計、労務費会計、経費会計 第5講・第6講 部門別計算、製品別計算 第7講・第8講 標準原価計算、原価・生産規模・利益関係の分析、短期利益計画、直接原価計算 第9講・第10講 簿記一巡の手続き、決算、農企業の財務諸表、経営分析 第11講・第12講 固定資産・繰延資産、引当金・準備金、設備投資の判断 第13講・第14講 農業経営のリスクマネジメント、収入保険制度 第15講・第16講 農業経営の法人化、株式会社、農事組合法人 第17講・第18講 資金管理、キャッシュフロー計算書 第19講・第20講 資金調達、農業金融、農業法人投資育成制度		
履修上の注意 (準備学習等)	農業簿記3級の簿記の知識を理解していることを前提に授業を行う。また、農業簿記2級レベルについても事前に学習のうえ授業に臨むこと。		
教科書	『農業簿記検定教科書2級』全国農業経営コンサルタント協会・大原簿記学校(大原出版) 必要に応じてプリント等を配布する。		
参考書	『農業簿記検定問題集2級』全国農業経営コンサルタント協会・大原簿記学校(大原出版)		

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) コーポレート・ファイナンス	単位数 開講期	1単位 2年次 後期	
担当講師	竹林 陽一 [(株) クリエイティブ・ジャングル 代表取締役社長]		
授業のねらい	本講義では、ファイナンスの理論を学び、ファイナンスが企業にとっての「未来」に焦点を置いていることを確認する。資金調達や資金運用に関する知識を獲得し、企業価値を最大化する考え方を学ぶとともに、経営者として意思決定を行う力を醸成することを目的とする。		
授業の概要	ファイナンスに関わる必要知識から、起業する上で必要となる実務や実務上注意を要する内容について学ぶ。具体的には、金融業界の構造やフィンテックをはじめとする最新の動向からファイナンスを俯瞰することに始まり、企業経営に必要なキャッシュフローマネジメントや事業や企業の価値評価の算定手法といった実践的な方法論を学ぶこととする。「考える」ための課題(Excel等表計算ソフトも活用)を通じて理解を深め、学びを実務へと結びつけていく(表計算ソフトは初回から使います)。		
授業計画	第1回 ファイナンスを取り巻く構造と実務上の基礎知識 第2回 基礎知識(続き)・資産価値評価 -1 (将来価値・現在価値という概念) 第3回 資産価値評価 -2 (DCF法等) 第4回 資産価値評価 -3 (事例紹介、演習問題を中心に) 第5回 資産・プロジェクト価値評価(正味現在価値等) 第6回 プロジェクト価値評価(演習問題を中心に) 第7回 企業価値評価(資本コスト)と経営 第8回 事業計画(資金繰り表、資本政策を中心に) 第9回 課題レビュー 第10回 その他(オプション等)		
履修上の注意 (準備学習等)	1. 「考える」ことを学ぶつもりで臨むこと。 2. 四則演算が基本であるため、数式をみただけで拒否反応を示さないこと。 3. 知識を積み上げる形で進んでいくため、必ず復習をすること。 4. わからない点がある場合には、講義中または講義後に講師または理解している学生に聞いて納得をすること。 5. 成績については、出席率80%以上(含む、講義に対する姿勢)と最終課題の提出(理解度も確認)を必須(条件を満たさない場合には、基本的に「不可」とするが、出席率については講師が納得する理由がある場合は例外とする)とする。		
教科書	まんがで身につくファイナンス(石野雄一)ダイヤモンド社		
参考書	起業のファイナンス(磯崎哲也)日本実業出版社		

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) 農業経営のリスク管理	単位数 開講期	1 単位 2 年次 前期	
担当講師	池戸 重信 [宮城大学名誉教授、(一社)食品表示検定協会理事長]		
授業のねらい	農業は自然を相手に生きものを生産する産業であるから、2次、3次産業以上に多様なハザード(危害)が存在し、リスクにさらされる。一般の企業では近年、経営上の課題(のひとつ)として、リスク分析手法に基づく(リスク)管理が重要な位置づけとなっているが、農業においても今後、経営規模が大きくなり、6次産業化によって事業内容も複雑化するにつれ、リスク管理が経営の命運を左右する可能性が拡大する。この授業では主要なリスクとそれへの対処方法を習得する。		
授業の概要	生産から消費に至るフードチェーン全体におけるリスク分析手法の概念を理解するとともに、特に多様な危害(ハザード)にさらされる農業におけるリスク要因とその管理法を習得する。具体的には、主要なリスクごとに、その内容と発生原因、消費者への影響、関係する規制等を理解するとともに、消費者に対する安心(信頼)対策としての表示制度や監視機関での現地検討を行う。		
授業計画	第1講 リスク分析とその要素 (リスクゼロ行政からリスク分析行政への転換と行政組織体系) 第2講 食品の安全性と安心(信頼)との関係 (食中毒実態と消費者との意識ギャップ) 第3講 食の安全・安心に関する法的位置づけ (食品安全基本法等関連法令の基本理念) 第4講 安全性確保手法と基準・制度の国内外の動向 (HACCP, GAP, ISO, Codex等の管理手法と国内外の制度) 第5講 食品の表示① (我が国表示制度の変遷) 第6講 食品の表示② (新たな食品表示制度と今後の展開) 第7講 トレーサビリティの定義と機能 (トレーサビリティの機能・役割と内外動向) 第8講 食品の安全・安心監視手法 (各種機器分析と疑和鑑別法) 第9講 食の安全・安心に対する監視体制① (監視機関(FAMIC)での現地検討) 第10講 食の安全・安心に対する監視体制② (監視機関(FAMIC)での現地検討)		
履修上の注意 (準備学習等)	1年次の授業を理解していることを前提に授業を行う。 また、販売されている種々の食品の表示について観察し、疑問や問題点を整理しておくこと。評価は、当日講義のはじめに示した「重要課題」に関する事後提出のコメントを参考にする。		
教科書	(調整中)		
参考書	(調整中)		

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) 農業経営の社会的責任とSDGs	単位数 開講期	1 単位 2 年次 後期	
担当講師	笹谷秀光 (CSR/SDGsコンサルタント)		
授業のねらい	本講義では、経営を実践していくなかで求められることになる社会的価値の創造や世界の共通目標であるSDGs (持続可能な開発目標) が長期的な取り組みとして、経営における大きな課題となってきたことを確認し、今後の戦略としてどのような選択が考えられるか、を検討することを目的としている。		
授業の概要	次世代型の経営モデルとして注目を集めるCSV (共通価値の創造) を基軸に、いかに本業を通じて社会的課題を解決すると同時に、経済価値を増大することができるかについて理論と実践を学ぶ。社会的課題については世界の共通言語であるSDGs (持続可能な開発目標) を学ぶ。これを自らの事業モデルにいかに関係するかを考察する。		
授業計画	第1回 経営者の社会価値創造概論①—CSV— (笹谷秀光) 第2回 経営者の社会価値創造概論②—SDGs— (笹谷秀光) 第3回 農業とCSV/SDGs① (ゲスト講師予定、笹谷秀光) 第4回 農業とCSV/SDGs② (ゲスト講師予定、笹谷秀光) 第5回 CSV実践企業の事例1 (ゲスト講師予定、笹谷秀光) 第6回 CSV実践企業の事例2 (ゲスト講師予定、笹谷秀光) 第7回 CSV/SDGs実践企業の事例3 (笹谷秀光) 第8回 CSV/SDGs実践企業の事例4 (笹谷秀光) 第9回 総括① (笹谷秀光) 第10回 総括② (笹谷秀光)		
SDGsでは履修上の注意 (準備学習等)	教科書『Q&A SDGs 経営』および『3ステップで学ぶ自治体SDGs STEP1 基本がわかるQ&A』を読後の上、下記の質問に対する答えを準備して、第1回目の授業に参加してください。 Q: あなたが構想中の事業モデルの社会価値と経済価値をさらに高めるためには、何が最大の壁となるでしょうか? その壁を乗り越えるためには、どのような打ち手が求められますか? Q: あなたが構想中の事業モデルはSDGsではどの目標に関連しますか?		
教科書	笹谷秀光 『3ステップで学ぶ自治体SDGs STEP1基本がわかるQ&A』 ぎょうせい、2020年 笹谷秀光 『3ステップで学ぶ自治体SDGs STEP3事例で見るまちづくり』 ぎょうせい、2020年		
参考書	名和高司 『CSV経営戦略』 東洋経済新報社、2015年		

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) 農業経営者の法律	単位数	1 単位	
	開講期	2 年次 後期	
担当講師	足立 学 [弁護士、東京富士法律事務所パートナー] 須賀 一也 [公認会計士、須賀公認会計士事務所代表]		
授業のねらい	本科目では、事業の展開や組織の運営を行う際に直面する、経営者として最低限身に付けておくべき法律知識の習得を目的とする。		
授業の概要	授業では、民法を中心に各種契約の概念につき、法律の条文や判例等を織り交ぜながら、実際の農業経営での活用を前提に学ぶ。さらに、税法の基礎について学習する。 なお、授業の習得度合い等を確認する観点から、復習材料として、適宜ケーススタディを活用したレポートを課す。		
授業計画	第1講 契約法 (1) [足立] 第2講 契約法 (2) [足立] 第3講 保証と担保 (1) [足立] 第4講 保証と担保 (2) [足立] 第5講 契約法・事例演習 (1) [足立] 第6講 契約法・事例演習 (2) [足立] 第7講 相続、事業承継 (1) [足立] 第8講 相続、事業承継 (2) [足立] 第9講 農業経営と税務 (1) 経営と税務の様々な接点・税の基礎 [須賀] 第10講 農業経営と税務 (2) 主要税目の基礎・ケーススタディ [須賀]		
履修上の注意 (準備学習等)	特になし。		
教科書	『実践企業法務入門 全訂版』滝川宜信著 (民事法研究会) その他、必要に応じてプリント等を配付する。		
参考書	特に指定しない。		

(領域) 経営力	(学群) 会計・マネジメント		
(科目名) 人材マネジメント	単位数 開講期	0.5単位 2年次 後期	
担当講師	入来院 重宏〔キリン社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士〕		
授業のねらい	本講義では、「人を雇用すること」の難しさや経営者の責任を知ってもらい、そのうえで、労働基準法等、労務管理に必要な知識を習得し、自己の事業や経営に合わせて適正な労働条件や規則、制度を作成できる力を身につけることを目的とする。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労務管理とは何をどのようにするのか、従業員がやりがいをもって仕事をする労務管理のポイントを一緒に考える。 ・ 労働基準法を中心に経営者が押さえておかなければならない法律や制度等を説明する。 ・ 農業労働の特殊性を考慮した労働条件の考え方を説明し、各々が各々の事業にあった労働条件や規則等を作成してみる。 		
授業計画	第1講 人を雇用することということ（経営者の覚悟や心構え、労務管理のポイント） 第2講 労務管理の基礎知識（主に労働基準法） 第3講 労働保険と社会保険、安全衛生と健康管理 第4講 外国人材の労務管理、人事制度（賃金制度、評価制度、福利厚生制度等） 第5講 農業労働の特殊性を考慮した労働条件の考え方① 第6講 農業労働の特殊性を考慮した労働条件の考え方②		
履修上の注意 (準備学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労務管理や人事制度、人材育成に関する疑問や不明点等あれば、事前書き出しておき、可能な限り授業中に質問していただきたい。 ・ 身近に会社就業規則等があれば、事前に読んでおくことで授業の理解が深まります。 ・ 電卓を多用するので持参してください。 ・ 成績評価は、レポート提出、授業態度等をみて決定します。 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の従業員採用・育成マニュアル（全国農業会議所） なお、必要に応じてプリント等資料を配布します。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の労務管理と労働・社会保険 百問百答（全国農業会議所） 		

(領域) 経営力	(学群) 事業創造・イノベーション		
(科目名) イノベーション実践論	単位数 開講期	1単位 2年次 前期	
担当講師	名取 隆 [立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授]		
授業のねらい	<p>本授業のねらいは、イノベーションの実践的知識と実践力を身に付けることである。そのために、以下の4つの知識・能力・意欲を育成することを授業の目標とする。</p> <p>①イノベーションとは何かを理解し、知識を活用できること ②イノベーションの起こし方を理解し、知識を活用できること ③イノベーションを成功させる方法を理解し、知識を活用できること ④上記の3つを実践するためのプロジェクトマネジメントを理解し、方法論を身に付け、それらの知識を活用できること</p>		
授業の概要	<p>授業の第1回、2回ではイノベーションの本質を学ぶことを目的として、イノベーションの定義、普及論、キャズム理論を学ぶ。第3回から6回ではイノベーションの起こし方を理解し、方法論を学ぶことを目的として、①顧客価値、②ポジショニング、③バリューチェーン、④エコシステムの創造、を学ぶ。第7回、8回ではイノベーションの成功法として、ビジネスモデルを学ぶ。第9回、10回では、イノベーション実践法を理解し、方法論を学ぶことを目的として、プロジェクトマネジメントの基本を学ぶ。</p> <p>毎回、講師からテーマに関する知識について講義を行います。その後、テーマに関する知識と活用能力を身に付け、意欲を醸成するために、簡単な事例分析による演習を行う（グループ学習）。</p>		
授業計画	<p>第1講 イノベーションの本質（定義、普及論、キャズム理論） 第2講 簡単な事例分析による演習（グループ学習） 第3講 イノベーションの起こし方（その1） 第4講 簡単な事例分析による演習（グループ学習） 第5講 イノベーションの起こし方（その2） 第6講 簡単な事例分析による演習（グループ学習） 第7講 イノベーションの成功法（ビジネスモデル） 第8講 簡単な事例分析による演習（グループ学習） 第9講 イノベーション実践法（プロジェクトマネジメントの基本） 第10講 簡単な事例分析による演習（グループ学習）</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	クラスでの議論を中心に授業を進めるので、完全出席が必要。		
教科書	『イノベーション実践論』丹羽清（東京大学出版会、2010）		
参考書	『技術経営論』丹羽清（東京大学出版会、2006） 『技術経営の実践的研究：イノベーション実現への突破口』 丹羽清編（東京大学出版会、2013） 『中小企業のための技術経営(MOT)入門―“つよみ”を活かすこれからの企業経営モデル―』名取隆編著（同友館、2015）		

(領域) 経営力	(学群) 事業創造・イノベーション		
(科目名) アントレプレナー論	単位数 開講期	0.5単位 2年次 後期	
担当講師	川崎 訓昭 [秋田県立大学生物資源科学部 助教]		
授業のねらい	本講義では、アントレプレナー（起業家・企業家）の取り組み方について学ぶ。特に起業家・企業家としての経営理念・経営戦略の組み立てや意思決定、人材育成について、ケース・スタディを通じて論じていく。		
授業の概要	講義は、実際の農業経営者をゲスト講師として招き、講義を進めていく(本年度は本校卒業生4期生の予定)。 起業家・企業家としての経営理念、意思決定、人材マネジメントにおける課題とその解決方向(資源不足、事業承継、事業リスクの集中等)について学ぶ。 また、ゲスト講師と学生、学生間でのディスカッション時間を設け、自身が経営を実践していくためのために、学びを深める。		
授業計画	第1講 農業経営での意思決定 第2講 農業経営の経営発展におけるアントレプレナーシップ 第3講 ゲスト講師によるケース・スタディ 第4講 ケース・スタディ・ディスカッション 第5講 ケース・スタディでのアントレプレナーシップ 第6講 受講生に見る企業家・起業家論		
履修上の注意 (準備学習等)	成績評価は、出席状況と最終課題(第6講に実施)によって決定する。基本的に、欠席者には追加課題を課すこととする。 講義開始前に、自身が目標とする先進的な農業経営体について文献やインターネットを活用し、情報を収集・整理しておく。		
教科書	小田滋晃・坂本清彦・川崎訓昭 編著『「農企業」のアントレプレナーシップ』, (次世代型農業の針路シリーズ 第1巻), 昭和堂, 2016年, 2,700円		
参考書	特になし		

(領域) 経営力	(学群) 事業創造・イノベーション	
(科目名) 農業起業論	単位数 開講期	0.5単位 1年次 前期
担当講師	和泉 真理 [(一社)日本協同組合連携機構客員研究員]	
授業のねらい	若い世代が就農する方法は多様化しており、親元就農に加え、農外からの新規参入や法人への雇用という形で就農する比率が増えてきている。農業者の絶対数が減少する中、地域の次世代の農業者を積極的に育てている経営も多い。本講義では、若い世代の就農から経営の確立をめぐる現状や課題について、さらには農業に関わる人づくりについて学ぶ。	
授業の概要	<p>本講義は3回で構成される。</p> <p>最初の講義では、日本での就農の現状や、支援策、課題など全般的な状況について学ぶ。</p> <p>その後2回の講義では、実際に農外から新規に就農し、現在は経営者として新規就農希望者や若い農業者をサポートしている農業者を招き、説明や学生との討論を通じて農業で起業する現状について把握し理解を深める。</p>	
授業計画	<p>第1・2講 多様化する若者の就農ルート</p> <p>第3・4講 新規就農支援の現場から:その1 外部講師:田下隆一 埼玉県小川町「風の丘ファーム」</p> <p>第5・6講 新規就農支援の現場から:その2 外部講師:重清信夫 山口県防府市「しげきよ農園」</p>	
履修上の注意 (準備学習等)	特になし	
教科書	堀口・堀部「就農への道」農文協	
参考書	NPO法人田舎のヒロインズ「耕す女」インプレスR&D 和泉「産地で取り組む新規就農支援」JC総研ブックレットNo.23 筑波書房	

農業力領域シラバス

(領域) 農業力	(学群) 農業力入門		
(科目名) 日本農業論	単位数	1 単位	
	開講期	1 年次 前期	
担当講師	堀口 健治 [日本農業経営大学校 校長] 蔦谷 栄一 [農的社会デザイン研究所 代表、 (株) 農林中金総合研究所 客員研究員] 鈴木 利徳 [前(一社) アグリフューチャージャパン参与、 元(株) 農林中金総合研究所 常務取締役] 比嘉 政浩 [(一社) 日本協同組合連携機構代表理事専務]		
授業のねらい	農業力の入門として位置付け、日本農業の現状と課題、持続的な農業の実現について多面的に考えることを目標とする。また基本的な知識の習得も目指す。		
授業の概要	<p>まずは農業の基本的な価値を説明したのちに、世界農業の展開について、農法を基礎に、経済システムや農業技術の進歩で多様に展開する実状を理解する。これで日本的農法の特長も理解されるだろう。農業と環境の関係は双方から議論されており、農業のあり方から環境への負荷・貢献など多面的に論じる。担い手としての農業者は今では家族経営から雇用型大規模法人まで多様であり、これを規定する要因を検討する。日本農業は多くの制度や仕組みに支えられており、その機能等、検討する。最後に日本農業の到達点と今後の展開方向を議論したい。</p>		
授業計画	<p>第1講・第2講：日本的農法の特長：モンスーン水田農法対欧州畑作論・耕畜連携。日本の畑作、永年作の果樹・茶等、施設園芸、畜産（分業化と一貫経営：施設型と放牧型）、農業技術の展開と最近の技術・スマート農業の特徴（堀口）</p> <p>第3講・第4講：環境と農業そして土地利用：環境と農業に加え、農村と都市：平地・(里山)・中山間・山(山林)：地域の多様性・地域区分・地域類型、さらに線引き政策を論じる。（蔦谷）</p> <p>第5講・第6講：生産の担い手分布と質的・量的変動：農家分類に加え組織的経営の動向・シェア、さらに新規参入・異業種からの参入・事業承継・M&A等の動的要素を解説する。第3者移譲や生前贈与等も話題になる。（鈴木）</p> <p>第7講：日本農業を支える仕組み：国の行政および自治体、村の自治組織、流通（卸売市場）を含め説明し、資本や農地調達等、個別経営との関連も解説する。（堀口）</p> <p>第8講：農業者組織としての農協系統：実際は地縁的な性格から出発し今もその特徴を持つ組織であり、さらに専門農協よりも総合農協が主という日本独特の仕組みと機能を概説する。（比嘉）</p> <p>第9講・第10講：日本農業及び農村の到達点と今後の展開：戦後の歴史、現状および今後の日本農業の仕組みと発展方向を論じる。最終回は試験を実施する。（堀口）</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	授業内容の理解が大事であり集中してもらおう。そして質疑で補ってほしい。評価は最終の講義日に行う試験を主として、出席や日頃の議論、コメント等も勘案する。		

教科書	配布資料、パワポを使い、ノートをしっかり取ってもらう。
参考書	随時、資料室にある図書を紹介する。

(領域) 農業力	(学群) 農業力入門																										
(科目名) 農業経済学	単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期																									
担当講師	清水 徹朗 [(株)農林中金総合研究所理事研究員] 若林 剛志 [(株)農林中金総合研究所部長代理] 石田 一喜 [(株)農林中金総合研究所主事研究員] 小野澤康晴 [(株)農林中金総合研究所理事研究員]																										
授業のねらい	本授業は、農業経営者として必要な農業経済学の基礎的な考え方を身につけることを目標としており、農業経済に関する雑誌・新聞の記事内容を理解し、農業経営を実践する際に直面する様々な経済問題を解決できる能力を養う。																										
授業の概要	最初に、農業経営と農業経済学がどういう関係にあるのかを解説し、その後、農産物価格、農地問題、農業労働、農産物貿易など農業経済学の基本的事項を講義し、さらに農業金融、農業財政についても説明する。																										
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1講</td> <td>農業経営と農業経済学</td> <td>[清水]</td> </tr> <tr> <td>第2講</td> <td>日本経済の発展と食料・農業</td> <td>[若林]</td> </tr> <tr> <td>第3講</td> <td>農産物価格論と価格政策</td> <td>[若林]</td> </tr> <tr> <td>第4講</td> <td>農地の経済理論と農地制度</td> <td>[石田]</td> </tr> <tr> <td>第5講</td> <td>日本の労働市場と農業労働</td> <td>[石田]</td> </tr> <tr> <td>第6講</td> <td>農産物貿易と貿易政策</td> <td>[清水]</td> </tr> <tr> <td>第7講</td> <td>日本の金融制度と農業金融</td> <td>[小野澤]</td> </tr> <tr> <td>第8講</td> <td>日本の財政と農業財政</td> <td>[清水]</td> </tr> </table>			第1講	農業経営と農業経済学	[清水]	第2講	日本経済の発展と食料・農業	[若林]	第3講	農産物価格論と価格政策	[若林]	第4講	農地の経済理論と農地制度	[石田]	第5講	日本の労働市場と農業労働	[石田]	第6講	農産物貿易と貿易政策	[清水]	第7講	日本の金融制度と農業金融	[小野澤]	第8講	日本の財政と農業財政	[清水]
第1講	農業経営と農業経済学	[清水]																									
第2講	日本経済の発展と食料・農業	[若林]																									
第3講	農産物価格論と価格政策	[若林]																									
第4講	農地の経済理論と農地制度	[石田]																									
第5講	日本の労働市場と農業労働	[石田]																									
第6講	農産物貿易と貿易政策	[清水]																									
第7講	日本の金融制度と農業金融	[小野澤]																									
第8講	日本の財政と農業財政	[清水]																									
履修上の注意 (準備学習等)	高等学校の「現代社会」ないし「政治・経済」を履修していることを前提に授業を行う。成績評価については、出席状況、各回のコメントペーパーの内容を総合的に判断して行う。																										
教科書	『入門・経済学 第3版』藪下史郎他(有斐閣)、『農業経済学 第4版』荏開津典生他(岩波書店)																										
参考書	授業中に適宜紹介する。																										

(領域) 農業力	(学群) 生物と農業		
(科目名) 生物と農業生産Ⅰ	単位数 開講期	1 単位 1 年次 前期	
担当講師	<p>【作物】平澤 正〔東京農工大学名誉教授〕 【野菜】中野 明正〔千葉大学学術研究・イノベーション推進機構 特任教授〕</p>		
授業のねらい	<p>農業は、作物や家畜という生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、本講義では、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>生物と農業生産Ⅰでは、作物及び野菜について学ぶ。 【作物】 まず、作物の成り立ちと作物（農作物）の種類、作物の基本的な性質を解説する。ついで、水稻、麦類、マメ類、イモ類の形態・生理・生態的特性を説明し、これに基づいて栽培の技術を解説する。 【野菜】 作物としての野菜の位置づけ、利用法などを概説する。発芽・花成・結実・養水分吸収など一般的な生理・生態と、関連する生産技術の基本を解説する。あわせて、品種開発および環境制御技術や養液栽培などの新技術などを判りやすく講義する。</p>		
授業計画	<p>【作物】 第1講 作物の成り立ちと基本的性質 第2講 作物の種類と特徴、生産状況 第3講 水稻、麦類、マメ類、イモ類の形態・生理・生態的特性 第4講 水稻、麦類、マメ類、イモ類の栽培技術 【野菜】 第1講 野菜の位置づけ、消費動向に対応した露地・施設野菜 第2講 品種開発の基本と展望 第3講 野菜生産に関する生産技術の基本（播種から収穫まで） 第4講 環境制御や養液栽培などの新しい技術の発展</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>個々の知見・情報を細切れに知ることではなく、学んだこと、経験したことを、自らの知的体系として構成し、理解を深められるようにしよう。 【作物】 作物の性質、特徴がどのように栽培技術の中に取り入れられているかを授業でよく理解するようにしてください。以前学んだ植物の基本的な形やしぐみを、あらかじめ復習しておくことが授業をよく理解する上で大切です。</p>		

教科書	必要に応じてプリント等を配付する。
参考書	<p>【作物】 『作物生産生理学の基礎』平沢正・大杉立編著（農文協） 『作物』平沢正他10名（実教出版） 『作物学の基礎Ⅰ』後藤雄佐・新田洋司・中村聡著（農文協）</p> <p>【野菜】 『野菜園芸学の基礎』篠原温 編著（農文協） 『野菜』伊東正他（実教出版）</p>

(領域) 農業力	(学群) 生物と農業		
(科目名) 生物と農業生産Ⅱ	単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期	
担当講師	<p>【畜産】 小林 信一〔静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部教授〕 【果樹】 澤登 早苗〔恵泉女学園大学人間社会学部教授〕 【花き】 渡辺 均〔千葉大学環境健康フィールド科学センター教授〕</p>		
授業のねらい	<p>農業は、作物や家畜という生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、本講義では、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。</p> <p>【畜産】 農業経営における家畜など動物の役割を理解することを目的とする。各畜種の特徴と、特徴ある畜産経営、畜産部門と他の農業部門との複合化や耕畜連携、さらに近年農山村で大きな課題となっている野生鳥獣問題についても解説する。また、各自の農業経営計画に家畜を取り入れたプランを発表してもらう。</p> <p>【果樹】 果樹に関する基本的なことがらを理解することを目的とする。果樹園芸の特徴と果樹の種類と品種、栽培方法について学ぶ。また、果樹における有機栽培の実態・課題・可能性、土づくりの方法などについても解説する。</p> <p>【花き】 花き園芸に関する基本的なことがらを理解することを目的とする。花き業界全般について解説し、その特徴を理解する。また、花き生産に必要な基本的な生産技術について、それぞれの生産形態ごとに解説する。さらに、まとめとして花き業界の問題点とビジネスチャンスについて解説する。</p>		
授業計画	<p>【畜産】 第1講 農業における家畜の役割 第2講 家畜を取り入れた経営事例 第3講 野生鳥獣の被害対策と利用 第4講 家畜を取り入れた農業経営計画（発表）</p>		

	<p>【果樹】 第1講 果樹園芸とその特徴 第2講 果樹の種類と品種 第3講 育種と繁殖 第4講 有機栽培と土づくり</p> <p>【花き】 第1講 花き園芸の概略と特徴 第2講 花き生産品目と流通 第3講 花き生産技術 第4講 花き園芸の問題点とビジネスチャンス</p>
履修上の注意 (準備学習等)	個々の知見・情報を細切れに知るのではなく、学んだこと、経験したことを、自らの知的体系として構成し、理解を深められるようにしよう。
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。
参考書	<p>【畜産】 『畜産学入門』 唐澤 豊・大谷 元・菅原邦生編 (文永堂出版) 『畜産』 近藤誠司、小林信一ら (実教出版)</p> <p>【果樹】 『果樹園芸学の基礎』 伴野 潔・山田 寿・平 智 (農文協) 『有機農業大全』 澤登早苗・小松崎将一 (コモンズ)</p>

(領域) 農業力	(学群) 資源・環境と農業		
(科目名) 資源・環境と農業生産Ⅰ	単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期	
担当講師	陽 捷行 [北里大学名誉教授、元農業環境技術研究所理事長] 荘林幹太郎 [学習院女子大学国際文化交流学部教授] 根本 久 [保全生物的防除研究事務所代表、 元埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所長] 宇根 豊 [百姓・農と自然の研究所代表、東京農業大学客員教授]		
授業のねらい	地球の水・大気・土壌などの環境資源には限りがある。これまでは、地球のもつこれら資源の利子で人類は食料生産を続けてきた。78億の人口を養うために、われわれは、すでに利子を使い果たし、元金に手をつけはじめた。農業生産を持続的に遂行するためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業を成功させなければ、人類の未来はこころもとない。ここでは、環境資源、エネルギーなどの問題を理解し農業経営を営む必要性を理解させる。		
授業の概要	資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業と資源・環境との関係、植物防疫、生物多様性等について学ぶ。 1. 総論【陽、荘林】 農業と資源・環境との関係、農業と環境問題などの総論を学ぶ。また、農業と環境政策の関わり、有機農業の推進等について学ぶ。 2. 農業と生物的環境【根本】 この授業では、成熟社会で求められる3つの安全（生産者の安全、生産物の安全、環境への安全）、病害虫による損失とその相対性、農業と生物多様性、人間活動が生み出す病害虫、病害虫が発生するための3要素、病害虫を防ぐ基本的な考え方、環境保全型農業の理念と生態学に基づいた総合的有害生物管理（IPM）等について学ぶ。 3. 農業と自然環境（生物多様性）【宇根】 百姓にとって自然とは何かを考えると、村や自分の外からのまなざしと、自分の実感からの内からのまなざしとは、まったく別のとらえ方ができる。この二つをどうつなぐかが難しい。この講義ではこの二つを統合する方法を提示する。農業は自然を（生きものを）相手とする仕事・くらしであるので、身近な自然環境から影響を受け、同時に影響を及ぼす。それを仕事の中で実感し自分なりの「天地自然観」に育てていかなければならないからである。農業の本質とは、自然に働きかけ、自然に包まれ、この関係が持続することである。この講義では、伝統的な日本人の天地（自然）観を振り返り、農業観がどのように変容してきたかを学ぶ。特に田畑や作物や生きものとの緊張関係をどのように引き受けて、農業生産を持続させていくかという百姓の責任を掘り下げる。		

<p>授業計画</p>	<p>1. 総論 第1講 農業が環境に及ぼす影響と、環境が農業に及ぼす影響 [陽] 第2講 農業が持つ環境保全機能 [陽] 第3講 農業と環境政策（1） [荘林] 第4講 農業と環境政策（2） [荘林]</p> <p>2. 農業と生物的環境 第5講 農薬規制とIPMの歴史 [根本] 第6講 露地での土着天敵を活用した害虫防除と施設栽培での天敵を利用した害虫防除 [根本]</p> <p>3. 農業と自然環境（生物多様性） 第7講 日本人の天地自然観とはどのようなものか [宇根] 第8講 農業技術と百姓仕事のちがひ [宇根] 第9講 環境保全型農業とは何か [宇根] 第10講 自然を支える農業政策は可能か [宇根]</p>
<p>履修上の注意 (準備学習等)</p>	<p>【1. 総論】 高校程度の国語および理科を理解していることを前提に授業する。地球温暖化と生物多様性が何たるかを理解して授業に臨むこと。</p> <p>【2. 農業と生物的環境】 高等学校の生物学を理解していることを前提に授業を行う。疑問な点については授業中に質問するなどしてよく理解するようにすること。</p> <p>【3. 農業と自然環境（生物多様性）】 農業と自然の関係を、百姓仕事の中で考え、感じたことがあることを前提に、講義を行う。農業と自然環境の関係について自分なりの自然観を深め、表現するための方法を身につける絶好のチャンスだと思って授業に臨むこと。</p>
<p>教科書</p>	<p>【2. 農業と生物的環境】 『天敵利用の基礎と実際』根本 久・和田哲夫 編（農山漁村文化協会）</p> <p>【3. 農業と自然環境（生物多様性）】 『農本主義のすすめ』（ちくま新書）、虫見板（農と自然の研究所版） 『日本人にとって自然とはなにか』（ちくまプリマー新書） 『ごはんも生きものも田んぼのめぐみ』（農と自然の研究所より贈呈） さらにオリジナルなテキストを印刷して配付する。</p>

参考書	<p>【1. 総論】 『土壌圏と大気圏』陽捷行編著（朝倉書店） 『環境保全と農林業』陽捷行（朝倉書店） 『この国の環境』陽捷行著（アサヒビール・清水弘文堂書房） 『地球の悲鳴』陽捷行著（アサヒビール・清水弘文堂書房） 『18 cmの奇跡』陽捷行著（三五館） 『土壌サイエンス入門 第2版』木村真人・南條正巳編著（文永堂） 『地球環境変動と農林業』陽捷行著（朝倉書店） 『世界の農業環境政策』荘林幹太郎他著（農林統計協会）</p> <p>【2. 農業と生物的環境】 『野菜を病気と害虫から守る本』根本久（NHK出版） 『天敵利用と害虫管理』根本久（農文協） 『天敵利用で農薬半減』根本久編著（農文協） 『イラスト 基本からわかる病害虫の予防と対策』根本久 監修（家の光協会） 『ひと目でわかる野菜の病害虫防除』根本久（家の光協会） 『改訂版 もっともくわしい植物の病害虫百科』監修 根本久・矢口行雄 （学研プラス）</p> <p>【3. 農業と自然環境（生物多様性）】 『農は過去と未来をつなぐ』宇根豊（岩波ジュニア新書） 『百姓学宣言』宇根豊（農文協） 『愛国心と愛郷心』宇根豊（農文協） 『田んぼの生き物指標』農と自然の研究所編（農と自然の研究所） 『農本主義が未来を耕す』宇根豊（現代書館） 『生きもの語り』宇根豊（家の光協会） 『うねゆたかの田んぼの絵本』全5巻 宇根豊（農文協）</p>
-----	--

(領域) 農業力	(学群) 資源・環境と農業		
(科目名) 資源・環境と農業生産Ⅱ	単位数 開講期	1 単位 2 年次 前期	
担当講師	橋本力男 [堆肥・育土研究所代表] 小林 久 [茨城大学農学部名誉教授, いばらき自然エネルギーネットワーク代表] 相原成行 [有機農業実践者 (神奈川県藤沢市)、相原農場代表] 萩原紀行 [有機農業実践者 (長野県佐久穂町)、のらくら農場代表] 婦木克則 [有機農業実践者 (兵庫県丹波市)、(株)丹波婦木農場代表]		
授業のねらい	地球の水・大気・土壌などの環境資源には限りがある。これまでは、地球のもつこれら資源の利子で人類は食料生産を続けてきた。78億の人口を養うために、われわれは、すでに利子を使い果たし、元金に手をつけはじめた。農業生産を持続的に遂行するためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業を成功させなければ、人類の未来はこころもとない。ここでは、環境資源、エネルギーなどの問題を理解し農業経営を営む必要性を理解させる。		
授業の概要	資源・環境と農業生産Ⅱでは、土壌環境、堆肥と土づくり、農業と資源・エネルギー、有機農業等について学ぶ。 4. 堆肥と土づくり【橋本】 この授業では、地域にある多様な有機物と無機物を堆肥化すること、肥料自給を可能にする発酵技術の原理や堆肥づくりについて学ぶ。そのため有機物の分類方法、各堆肥の混合比率、仕込み、発酵管理、完熟の判定を学ぶ。次に、堆肥を利用して作物の病虫害が少なく、美味しい食べものが生産できる「健康な土づくり」について説明する。つまり各堆肥の使い方、栽培方法を学ぶ。 5. 農業と資源・エネルギー【小林】 農業・農村が地域固有の環境・資源や自然エネルギー利用とどのように関わってきたかを学ぶとともに、農業・農村における自然エネルギーの利活用と地域社会の今後の可能性を循環型地域づくりの実践的な取り組みなどを知ることで学ぶ。 6. 環境と調和した持続的な農業生産【相原、萩原、婦木】 環境と調和した持続的な農業生産について、有機農業を実践している農業者等からさまざまな取り組みの実践例を学ぶ。		

<p>授業計画</p>	<p>4. 堆肥と土づくり 第1講 有機物の利用と分類・・家畜ふん尿・刈り草・落ち葉・生ごみの堆肥化 [橋本] 第2講 堆肥化技術・・堆肥づくり (発酵原理、仕込み、発酵管理) [橋本] 第3講 堆肥の使い方 [橋本] 第4講 健康な土づくり・・有機栽培・オーガニックフラワー [橋本]</p> <p>5. 農業と資源・エネルギー 第5講 自然エネルギーと農業・農村 (1) [小林] 第6講 自然エネルギーと農業・農村 (2) [小林]</p> <p>6. 環境と調和した持続的な農業生産 第7講 有機農業の実践 (都市農業) [相原] 第8講 有機農業の実践 (山間地) [萩原] 第9講 持続可能な農業生産、農業経営、地域づくり (1) [婦木] 第10講 持続可能な農業生産、農業経営、地域づくり (2) [婦木]</p>
<p>履修上の注意 (準備学習等)</p>	<p>【4. 堆肥と土づくり】 教科書の第1章・第6章・あとがきを事前に読むこと。</p>
<p>教科書</p>	<p>なし</p>

【4. 堆肥と土づくり】

『堆肥づくり・土づくり・有機育苗』 橋本力男 (NPO有機農業技術会議)

『堆肥のつくり方・使い方』 藤原俊六郎 (農文協)

『農家の技術・早わかり事典』 (農文協)

【5. 農業と資源・エネルギー】

『地域の力で自然エネルギー!』 鳥越皓之・小林久・海江田秀志・泊みゆき・山崎淑行
・古谷佳信 (岩波ブックレット, 2010)

『コミュニティ・エネルギー』 室田武・倉阪秀史・小林久・島谷幸宏・山下輝和・藤本穰彦・三浦秀一・諸富徹 (農文協, 2013)

『再エネで地域社会をデザインする』 小林久 (編著) (京大学術出版会, 2020)

【6. 環境と調和した持続的な農業生産】

『野菜も人も畑で育つー信州北八ヶ岳・のらくら農場の「共創する」チーム経営』
萩原紀行 (同文館出版, 2021)

『生物多様性のブランド化戦略 豊岡コウノトリ育むお米に見る成功モデル』
矢部光保・林 岳 (筑波書房, 2015)

『「農業を株式会社化する」という無理 これからの農業論』 内田樹・藤山浩・宇根豊
(家の光協会, 2018)

『地域づくりの経済学入門ー地域内再投資力論』 岡田知広 (自治体研究社, 2005)

『絵とき金子さんちの有機家庭菜園』 金子美登 (家の光協会, 2012)

『イラストでわかる有機自給菜園』 金子美登 (家の光協会)

『CSA 地域支援型農業の可能性ーアメリカ版地産地消の成果』
エリザベス・ヘンダーソン (家の光協会, 2008)

『「創造的である」ということ〈上〉農の営みから』 内山節 (農文協, 2006)

『「創造的である」ということ〈下〉地域の作法から』 内山節 (農文協, 2006)

『無農薬・有機のイネづくり』 稲葉光國 (農文協)

『宴のあとの経済学』 E.F. シューマッハー (ちくま学芸文庫, 2011)

『小さくて強い農業をつくる』 久松達央 (晶文社, 2014)

『食と農の社会学 生命と地域の視点から』 榊淵俊子・谷口吉光・立川雅司編著
(ミネルヴァ書房, 2014)

『肥満と飢餓 世界フードシステムの不幸のシステム』 ラジ・パテル (著)
佐久間智子 (訳) (作品社, 2010)

『家族農業が世界の未来を拓く 食料保障のための小規模農業への投資』
国連世界食料保障委員会専門家ハイレベル・パネル (著)、家族農業研究会、
(株) 農林中金総合研究所 (共訳) (農文協, 2014)

『オーガニックラベルの裏側: 21世紀食品産業の真実』 クレメンス・G・アルヴァイ (著),
長谷川 圭 (翻訳)(2014 春秋社)

(領域) 農業力	(学群) 食料・農業の政策と法律		
(科目名) 日本の食料・農業政策	単位数 開講期	1. 5単位 1年次 前期・後期	
担当講師	生源寺眞一 [福島大学食農学類教授] 安藤 光義 [東京大学大学院農学生命科学研究科教授] 江川 章 [中央大学経済学部准教授] 室屋 有宏 [桃山学院大学経営学部教授] 内田多喜生 [(株)農林中金総合研究所常務取締役] 長谷川晃生 [(株)農林中金総合研究所食農リサーチ部主任研究員] 小針 美和 [(株)農林中金総合研究所食農リサーチ部主任研究員]		
授業のねらい	本講義では、現代日本の食料政策と農業政策について、その背景にある日本社会の構造変化や経済のグローバル化の流れを踏まえながら、基本的・包括的な知識を身につける。とくに農業経営と直接に関係する政策領域については、経営者としての適切な対応方法を含めて詳しく解説する。さらに、政策のあり方に関して、冷静な判断や建設的な提言にもつながるように、的確な鑑識眼を養うこともねらいとする。		
授業の概要	初回の講義で日本の食料・農業・農村政策の概要を把握し、続いて量と質の両面から国民の食の安全を確保する政策について論じる。そのうえで農業経営の育成に関わる担い手政策や農地制度の推移と現状、農業経営の成長を支える重要な要素である金融政策や技術政策を学ぶ。さらに地域とともに生きる農業経営という問題意識に立って、農村政策を学習する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1講 食料・農業・農村政策の全体像 [生源寺] 第2講 食料自給率と米政策 [生源寺] 第3講 食の安全・安心と食料安全保障 [生源寺] 第4講 担い手政策① [小針] 第5講 担い手政策② [小針] 第6講 農業への新規参入① [江川] 第7講 農業への新規参入② [江川] 第8講 農業の六次産業化 [室屋] <p>【後期】</p> 第9講 農地制度① [内田] 第10講 農地制度② [内田] 第11講 農業金融① [長谷川] 第12講 農業金融② [長谷川] 第13講 農業技術の開発と普及 [内田] 第14講 農村社会と農業集落 [安藤] 第15講 農村資源の保全と活用 [安藤]		
履修上の注意 (準備学習等)	特になし		
教科書	農林水産省『食料・農業・農村白書』(令和2年版)		
参考書	『日本農業の真実』生源寺眞一(筑摩書房) 『農業制度資金の解説』公益財団法人農林水産長期金融協会		

(領域) 農業力	(学群) 食料・農業の政策と法律																																
(科目名) 世界の食料・農業政策	単位数 開講期	1 単位 2 年次 前期																															
担当講師	生源寺眞一 [福島大学食農学類教授] 三石 誠司 [宮城大学食産業学部教授] 阮蔚 (ルアン・ウェイ) [(株)農林中金総合研究所基礎研究部理事研究員] 小林 弘明 [千葉大学大学院園芸学研究科教授] 野川 未央 [特定非営利活動法人 APLA 事務局長] 平澤 明彦 [(株)農林中金総合研究所取締役基礎研究部長] 市田 知子 [明治大学農学部教授] 石井 圭一 [東北大学大学院農学研究科准教授] 和泉 真理 [(一社)日本協同組合連携機構客員研究員]																																
授業のねらい	国によって食料政策や農業政策のあり方は多様であるが、多くの先進国には農業保護という共通項があり、途上国にあつては農家が概して過酷な政策のもとにおかれる傾向がある。本講義では、主要な先進国の食料・農業政策の骨格を学ぶとともに、成長著しいアジアの国々の政策の動向を把握する。各国の政策にはその国の食料と農業の実態も反映されている。政策を手掛かりに海外の食料・農業事情を理解する点も本講義のねらいである。																																
授業の概要	最初の 2 回の講義で、先進国と途上国の政策と世界の食料貿易の構図を俯瞰する。そのうえで国別・地域別に具体的な政策について学ぶ。先進国については、アメリカと EU の動向を学ぶとともに、イギリス・フランス・ドイツの政策の特色を理解する。さらに、著しい成長を遂げつつあり、日本の農産物の販路としても重要性を増しているアジア（中国など）について、近年の食料・農業政策の動向を把握する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 講</td> <td>世界の食料・農業政策</td> <td>[生源寺]</td> </tr> <tr> <td>第 2 講</td> <td>国際的な食料貿易の構図</td> <td>[三石]</td> </tr> <tr> <td>第 3 講</td> <td>アメリカ</td> <td>[三石]</td> </tr> <tr> <td>第 4 講</td> <td>中国</td> <td>[阮]</td> </tr> <tr> <td>第 5 講</td> <td>アジア</td> <td>[小林]</td> </tr> <tr> <td>第 6 講</td> <td>市民の取り組み</td> <td>[野川]</td> </tr> <tr> <td>第 7 講</td> <td>EU 全体</td> <td>[平澤]</td> </tr> <tr> <td>第 8 講</td> <td>ドイツ</td> <td>[市田]</td> </tr> <tr> <td>第 9 講</td> <td>フランス</td> <td>[石井]</td> </tr> <tr> <td>第 10 講</td> <td>イギリス</td> <td>[和泉]</td> </tr> </table>			第 1 講	世界の食料・農業政策	[生源寺]	第 2 講	国際的な食料貿易の構図	[三石]	第 3 講	アメリカ	[三石]	第 4 講	中国	[阮]	第 5 講	アジア	[小林]	第 6 講	市民の取り組み	[野川]	第 7 講	EU 全体	[平澤]	第 8 講	ドイツ	[市田]	第 9 講	フランス	[石井]	第 10 講	イギリス	[和泉]
第 1 講	世界の食料・農業政策	[生源寺]																															
第 2 講	国際的な食料貿易の構図	[三石]																															
第 3 講	アメリカ	[三石]																															
第 4 講	中国	[阮]																															
第 5 講	アジア	[小林]																															
第 6 講	市民の取り組み	[野川]																															
第 7 講	EU 全体	[平澤]																															
第 8 講	ドイツ	[市田]																															
第 9 講	フランス	[石井]																															
第 10 講	イギリス	[和泉]																															
履修上の注意 (準備学習等)	特になし																																
教科書	アルリンド・クーニャ著、市田・和泉・平澤訳 『EU 共通農業政策改革の内幕—マクシャリー改革・アジェンダ 2000・フィシュラー改革』農林統計出版、2014 年 「EU 共通農業政策 (CAP) の新段階」『新自由主義グローバリズムと家族農業経営』, 123-168 頁, (第 4 章), 村田武 編, 2019 年, 筑波書房。																																

<p>参考書</p>	<p>『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』生源寺眞一（家の光協会） 農業協同組合新聞【電子版】三石先生連載コラム 「グローバルとローカル：世界は今」http://www.jacom.or.jp/column/cat602/ 「グローバル展開で食の安全保障を図る中国」『農林金融』2015年2月号 「中国人が称賛する日本の農協」『Voice』2015年1月号 159p 「直接支払いと農業保護：日本にとっての留意点」『Agrio』(56), 15-16p, 2015年4月14日. 「欧州グリーンディールと農林水産業」『農中総研 調査と情報』(76), 20-21 頁,2020年1月. 「ブレクジットと英国農業」JCA 研究ブックレット No.25 和泉真理 『甘いバナナの苦い現実』石井正子編著、コモンズ、2020年</p>
------------	---

(領域) 農業力	(学群) 食料・農業の政策と法律																																
(科目名) 食料・農業の法律と制度	単位数 開講期	1 単位 2 年次 後期																															
担当講師	松原 明紀 [農林水産省大臣官房検査・監察部長] 内藤 恵久 [農林水産政策研究所上席主任研究官] 武田 泰明 [特定非営利活動法人アジアGAP総合研究所専務理事]																																
授業のねらい	この授業では、食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に、体系的に習得することを目的とする。																																
授業の概要	<p>食料・農業関係諸法律は規制的なもの、振興的なものなど内容は多岐にわたるが、農業経営に密接に関連してくるものである。このため、農業経営者として、問題の所在と解決の方向性を認識し、また、必要に応じて法律専門家や行政関係者の助力を求めるためにも、基本的な法律知識を自分の頭に入れておくことが不可欠である。</p> <p>このような観点から、この授業は、食料・農業関係諸法律の分野ごとの代表的な法律について、政策的背景とも関連させつつ講義することにより、それぞれの分野における法律の体系的な理解ができるようにする。</p> <p>具体的には、食料・農業に関する基本的法律をまず講義し、続いて、第一の重点として自己の生産する食品の安全性確保や表示に関する法律を、また、第二の重点として農業経営自体に関わる、農業経営の安定に資するための法律、農地関係法律、農業団体関係法律、知的財産権関係法律を、さらに第三の重点として今後配慮していくべき分野である、自然環境維持増進・環境保全関係法律を講義する。</p> <p>分量が多く、無味乾燥になりがちであるが、狭い意味での「法律」にとらわれることなく、担当講師の創意工夫の下に、わかりやすい教材を作成し、それに基づいて講義を進める。</p>																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1講</td> <td>食料・農業・農村基本法その他関連基本法</td> <td>[松原]</td> </tr> <tr> <td>第2講</td> <td>食品安全関係法、食品表示関係法</td> <td>[松原]</td> </tr> <tr> <td>第3講</td> <td>農地法等農地・土地関係法</td> <td>[内藤]</td> </tr> <tr> <td>第4講</td> <td>食品の流通販売関係法、6次産業化関係法、農協法等団体関係法</td> <td>[内藤]</td> </tr> <tr> <td>第5講</td> <td>知的財産関係法</td> <td>[内藤]</td> </tr> <tr> <td>第6講</td> <td>経営安定関係法</td> <td>[松原]</td> </tr> <tr> <td>第7講</td> <td>自然環境維持増進・環境保全関係法</td> <td>[松原]</td> </tr> <tr> <td>第8講</td> <td>GAP制度と認証制度 (GAPの機能・役割と認証制度)</td> <td>[武田]</td> </tr> <tr> <td>第9講</td> <td>実現場におけるGAP① (GAPの事例紹介① 現地検討)</td> <td>[武田]</td> </tr> <tr> <td>第10講</td> <td>実現場におけるGAP② (GAPの事例紹介② 現地検討)</td> <td>[武田]</td> </tr> </table>			第1講	食料・農業・農村基本法その他関連基本法	[松原]	第2講	食品安全関係法、食品表示関係法	[松原]	第3講	農地法等農地・土地関係法	[内藤]	第4講	食品の流通販売関係法、6次産業化関係法、農協法等団体関係法	[内藤]	第5講	知的財産関係法	[内藤]	第6講	経営安定関係法	[松原]	第7講	自然環境維持増進・環境保全関係法	[松原]	第8講	GAP制度と認証制度 (GAPの機能・役割と認証制度)	[武田]	第9講	実現場におけるGAP① (GAPの事例紹介① 現地検討)	[武田]	第10講	実現場におけるGAP② (GAPの事例紹介② 現地検討)	[武田]
第1講	食料・農業・農村基本法その他関連基本法	[松原]																															
第2講	食品安全関係法、食品表示関係法	[松原]																															
第3講	農地法等農地・土地関係法	[内藤]																															
第4講	食品の流通販売関係法、6次産業化関係法、農協法等団体関係法	[内藤]																															
第5講	知的財産関係法	[内藤]																															
第6講	経営安定関係法	[松原]																															
第7講	自然環境維持増進・環境保全関係法	[松原]																															
第8講	GAP制度と認証制度 (GAPの機能・役割と認証制度)	[武田]																															
第9講	実現場におけるGAP① (GAPの事例紹介① 現地検討)	[武田]																															
第10講	実現場におけるGAP② (GAPの事例紹介② 現地検討)	[武田]																															
履修上の注意 (準備学習等)	食料・農業の実態を理解していることを前提に授業を行う。 質疑応答にあたっては積極的に参画されたい。																																
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。																																

参考書	『農林水産六法』（学陽書房） 『JGAP公式解説書：農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する』日本GAP協会編著 『JGAP：実務者のための導入ガイドブック：農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する』日本GAP協会編著
-----	---

社会力領域シラバス

(領域) 社会力	(学群) 社会力入門		
(科目名) フードシステム論	単位数 開講期	1 単位 1 年次 前期	
担当講師	中嶋 康博 [東京大学大学院農学生命科学研究科教授] 中嶋 晋作 [明治大学農学部准教授]		
授業のねらい	現代の食と農は大きな曲がり角に直面している。これからの行く末を見通すために、食と農、そしてそれらを支える社会的枠組みの現状と課題をフードシステムの概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を社会科学的視点、特に経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	まず、授業全体を通して考えるための基礎であるフードシステムの枠組みと機能を紹介する。その上で、わが国の食料消費が戦後どのように変化したかを確認し、近年の特徴を述べる。次に、それらの食を支える農業、食品製造業、流通業、小売業の実態を産業組織という観点から説明する。そのうち特に農産物流通の機能と課題を明らかにする。以上のことを踏まえながら、農業・食料政策の新しい取り組みである農業の6次産業化の動きをフードシステムの観点から説明し課題を指摘する。さらに近年、消費者の最大の関心事項である、食の安全問題を取り上げて、その問題点と対策について考察する。また関連して食の信頼問題にも言及し、その解決策として注目されているフードコミュニケーションの意義を明らかにする。最後に現代の消費者の意識と行動を踏まえながら新しいフードシステムをどのように設計すべきかについて学び考える。		
授業計画	第1講 フードシステムとは何か [中嶋康博] 第2講 わが国の食料消費 [中嶋康博] 第3講 農業とフードシステムの関連構造 [中嶋晋作] 第4講 食品産業の産業組織 [中嶋晋作] 第5講 農産物流通 [中嶋晋作] 第6講 農業の6次産業化 [中嶋晋作] 第7講 食の安全と信頼 [中嶋康博] 第8講 新しいフードシステム [中嶋康博]		
履修上の注意 (準備学習等)	受講するにあたって特別な準備は必要ない。		
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。		
参考書	『フードシステムの経済学』 時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博 (医歯薬出版) 『食の安全と安心の経済学』 中嶋康博 (コープ出版) 『日本農業の真実』 生源寺眞一 (筑摩書房)		

(領域) 社会力	(学群) 消費者・食生活・食文化	
(科目名) 食生活と食文化	単位数 開講期	1 単位 2 年次 後期
担当講師	武見 ゆかり [女子栄養大学栄養学部教授] 小岩井 馨 [女子栄養大学栄養学部助手]	
授業のねらい	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因も含め構造的に整理し説明できるようになる。健康や食文化の面からも国際的に評価が高い日本の食事パターンや食文化について理解し、自分とのかかわりを考えられる。	
授業の概要	この授業では、人間にとって食とは何か、人間の食は環境とどのように関わりを持って営まれてきたかなどについて、食生態学の視点および枠組みにそって、食の多様性、食行動の特徴、食物の階層構造、食歴、環境との関わり等について学ぶ。 また、各地に伝えられてきた伝統的な食生活の実態を学び、多様で豊かな地域文化の重要性を理解する。	
授業計画	第1講 人間にとって望ましい食とは：人間が食にのぞむもの、食行動の多様性 第2講 社会にとって望ましい食とは：社会全体の変化や将来像をふまえて 第3講 食物の階層構造：栄養素－食品－料理－食事のつながり 第4講 何をどれだけ食べたらよいか：自分の食事の自己点検 第5講 食育と自給率向上 第6講 健康情報の読み解き方 第7講 地域の食文化・郷土料理 第8講 人間の食と食環境、及びその循環	
履修上の注意 (準備学習等)	出身地域の年中行事や行事食、伝統食、郷土料理を調べ、理解した上で授業に臨むこと。成績の評価は、レポート提出と授業態度から総合的に行う。	
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。	
参考書	『食生活論』足立己幸編著（医歯薬出版）、『栄養素の通になる 第4版』上西一弘著（女子栄養大学出版部）	

(領域) 社会力	(学群) 農村地域の活性化		
(科目名) 農山村の再生戦略	単位数 開講期	1. 5単位 1年次 前期・後期	
担当講師	関司 直也 [法政大学現代福祉学部教授] 荘林 幹太郎 [学習院女子大学国際文化交流学部教授] 橋口 卓也 [明治大学農学部准教授] 筒井 一伸 [鳥取大学地域学部教授] 佐久間康富 [和歌山大学システム工学部准教授] 神代 英昭 [宇都宮大学農学部准教授] 山浦 陽一 [大分大学経済学部准教授]		
授業のねらい	農山村をめぐる課題は、農業や産業・経済のみでなく多面的である。「生活」「資源」「コミュニティ」を含め、その総合的な状況の中で、地域の再生をいかに進めていくかを考えなくてはならない。政策のあり方や農業経営者として（あるいは集落の一員として）の振る舞い方を含め、自らの地域の内発的発展を実現する理論と実践（基準）を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	この授業では、第1に、農山村の再生戦略にかかわり、マクロ的状況と従来までの政策の概況を講述する。第2に、多面的な農山村の再生の要素として、「農林業」「生活」「資源・コミュニティ」の各論について論じる。そして、第3に、それらを総合化して、ヨーロッパの農山村再生の動きから学びながら、我が国における農山村の内発的発展の実践的方向性について学ぶ。		
授業計画	<前期> 第1講 農山村・再生戦略—イントロダクション (1) [関司] 第2講 農山村・再生戦略—イントロダクション (2) [関司] 第3講 農山村の位置づけと役割 (1) [橋口] 第4講 農山村の位置づけと役割 (2) [橋口] 第5講 農山村再生となりわいづくり (1) —起業 [筒井] 第6講 農山村再生となりわいづくり (2) —継業 [筒井] 第7講 農山村の農業とその再生 (1) [神代] 第8講 農山村の農業とその再生 (2) [神代] <後期> 第9講 農山村の生活問題とその再生 (1) [山浦] 第10講 農山村の生活問題とその再生 (2) [山浦] 第11講 農山村の景観・コミュニティとその再生 (1) [佐久間] 第12講 農山村の景観・コミュニティとその再生 (2) [佐久間] 第13講 農山村再生とEUの戦略・政策—そのインプリケーション (1) [荘林] 第14講 農山村再生とEUの戦略・政策—そのインプリケーション (2) [荘林] 第15講 農山村再生の展望—総括 (1) [関司] 第16講 農山村再生の展望—総括 (2) [関司]		

履修上の注意 (準備学習等)	高校の「現代社会」または「政治・経済」の内容を理解していることを前提に授業を行う。自らがかわる(予定の)地域の状況を良く知り、その地域の発展のためにどうしたら良いのかということを常に考えながら授業に参加することを望みたい。
教科書	『農山村再生に挑む』小田切徳美編(岩波書店) ※本講義用に作成されたテキストである。
参考書	『農山村は消滅しない』小田切徳美著(岩波書店) 『農山村再生の実践』小田切徳美編著(農山漁村文化協会) 『世界の農業環境政策』荘林幹太郎他著(農林統計協会) 『移住者の地域起業による農山村再生』筒井一伸他著(筑波書房) 『移住者による継業』筒井一伸他著(筑波書房) 『住み継がれる集落をつくる』山崎義人・佐久間康富編著(学芸出版社)

(領域) 社会力	(学群) 農村地域の活性化		
(科目名) 協同組合論	単位数	1 単位	
	開講期	1 年次 後期	
担当講師	小林 元 [(一社) 日本協同組合連携機構 基礎研究部長] ほか		
授業のねらい	協同組合は、食料、農業、農村を取り巻く環境の中で、歴史的に大きな役割を果たしてきた。しかしながら、協同組合に対する社会の理解は必ずしも高いとはいえない。そこで本講義では、協同組合について、①「協同組合とは何か?」、②「協同組合の目的」、③「協同組合の課題」を学び、受講者自身が協同組合とどのように接していくか、主体的に考える力を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	この授業では、協同組合を運動 (association) と事業 (enterprise) の矛盾的統合体として捉え、協同組合の基本原理を踏まえたうえで、今日の協同組合の実態と課題を学ぶ。第1に、協同組合は歴史的な存在形態であるから、成立から今日までを歴史的に学んだ上で、日本及び世界の各種協同組合の取り組みを学ぶ。第2に今日の農と食にかかる協同組合として、生活協同組合 (消費者購買生協) と農業協同組合 (総合農協=JA) を対象として、その運動と事業の展開と仕組みを学ぶ。第3に、地域でみられる「新しい協同」の動き (協同組合間連携、小さな協同) から、協同組合に求められる社会での役割を検討する。		
授業計画	第1講 協同組合とは その歴史と思想 第2講 日本の協同組合の歴史① 生活協同組合の展開 第3講 生活協同組合の事業・組織・組合員 第4講 日本の協同組合の歴史② 産業組合から農協・JAへ 第5講 JAの事業・組織・組合員 第6講 JAの営農経済事業のいま 第7講 JAの組合員組織 女性組織に注目して 第8講 食と農を結ぶファーマーズマーケット 第9講 広がる協同組合間連携の取り組み 第10講 地域づくりと協同組合 ※講師は (一社) 日本協同組合連携機構の職員が担当		
履修上の注意 (準備学習等)	受講者自身の体験や地域の協同組合の事業等に関心を抱き、主体的に具体的な情報を収集して授業に臨むことを期待したい。また、自身の農業経営の中で、地域の協同組合と如何に関わっていくのか、主体的な考えを持って授業に臨むこと。		
教科書	特に指定しない		
参考書	中川・杉本編著、全労済協会監修「協同組合を学ぶ」、日本経済評論社、2012年		

(領域) 社会力	(学群) 農村地域の活性化		
(科目名) 集落営農とJA出資型農業法人	単位数 開講期	1単位 2年次 前期	
担当講師	小林 元 [(一社)日本協同組合連携機構 基礎研究部長]		
授業のねらい	我が国の農業生産の歴史的発展をひもとくと、特に水田農業では集落などを単位とした農業生産者の集団的対応の歴史がみられる。技術体系が発展した今日でも、集落を単位とした営農、すなわち集落営農が展開し、かつ政策対象となっている。この授業では、こうした集落営農の取り組みの特徴とその意義を理解することを目的とする。		
授業の概要	集落営農を①「むら」(地域と地域資源)、②「農法」(技術の発展)から捉え、歴史的発展と今日的な実態から集落営農の特徴とその意義を理解することを目的とする。集落営農は地域の実態に合わせて多様な発展がみられることから、地帯構成区分に注目して、さまざまな実践事例のケーススタディからその要点を学ぶ。そして、単に集落営農を農業生産の組織化に矮小化することなく、地域づくりの視点から読み解くことで、受講者自身が将来地域のリーダーとして活躍することを期待し、その一助となることを目的とする。講義はグループワークを中心とする。		
授業計画	第1講 集落営農の歴史的発展① 「むら」と「農法」 第2講 集落営農の歴史的発展② 社会の発展と結合様式の変化 第3講 集落営農のモデルに学ぶ① 平場コメ地帯の集落営農 第4講 集落営農のモデルに学ぶ② 中山間地域の集落営農 第5講 2階建て集落営農の論理① むらの論理と経営 第6講 2階建て集落営農の展開② 都市農村交流の拠点として 第7講 JA出資法人と地域農業 地域農業におけるJAの役割 第8講 JA出資法人の機能と経営 担い手・新規就農育成の役割 第9講 農業政策と集落営農 農業政策の中での集落営農の位置づけ 第10講 集落営農の発展方向 地域づくりと産地づくり		
履修上の注意 (準備学習等)	1年次に開講する「農山村の再生戦略」と「協同組合論」を理解していることを前提に授業を行う。また、自身の農業経営を想定し、就農を考えている地域の実態や、地域農業の中での自身の農業経営の関わり方について、事前に検討したうえで授業に臨むこと。		
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。		
参考書	『進化する集落営農』 楠本雅弘 (農山漁村文化協会)		

(領域) 社会力	(学群) 農村地域の活性化		
(科目名) 農業と女性		単位数 開講期	1 単位 2 年次 後期
担当講師	安倍 澄子 [前 日本女子大学 客員教授] 原 珠里 [東京農業大学国際食料情報学部 教授]		
授業のねらい	この授業では、農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に向けて農山村女性が取り組む活動状況や問題・課題を理解するとともに、この女性活動が地域活性化に連動するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、地域社会の新たな動きを創り出す資質・能力を身に付けることを目的とする。		
授業の概要	<p>今日、女性農業者は共同経営者として経営参画し、また異業種部門を取り入れた加工・直売による起業活動でエンパワーメントし、地域社会への参画も進めながら地域活性化に大きく貢献している。これらの取り組みを進めていくにあたって、経営と生活との両輪のバランスを保つこと、ワーク・ライフ・バランス、部門間の役割分担などの協力体制確立が必須となる。</p> <p>そこで、女性のライフサイクルの特性を知り、生活経営論を基礎として学ぶ。この農業・生活経営の基礎知識をふまえ、地域活性化に向けた女性活動の現状把握、地域で女性が果たす役割変化にともなうネットワーク形成、地域社会の資源活用（ソーシャルキャピタル）に関する知識、関連する行政の支援策など諸制度に関しても、その歴史的な変遷もあわせて学ぶこととする。</p> <p>なかでも、今後の農業経営のあり方を考える上で要（かなめ）となる「パートナーシップ経営」の概念を理解し、それを進めていくためのツールとなる家族経営協定の意義や取り組みについて学んでいく。さらに、グローバル化の視点から日本のみならず、諸外国の農山村での女性活動の実践事例について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1講 授業ガイダンス 【安倍】</p> <p>第2講 生活経営論について 一個人・家庭・地域社会ー 【安倍】</p> <p>第3講 ジェンダー論の考え方と農村社会 【原】</p> <p>第4講 農村女性のソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル 【原】</p> <p>第5講 農山村女性活動の現状・問題 【安倍】</p> <p>第6講 農山村女性をめぐる課題 ー女性をめぐる諸制度の変遷をふまえて 【安倍】</p> <p>第7講 パートナーシップ経営 【安倍】</p> <p>第8講 農業経営多角化への取り組み、6次産業化と女性起業 【安倍】</p> <p>第9講 諸外国における農山漁村女性の活動状況 【安倍】</p> <p>第10講 地域活性化の担い手としての女性活動と社会力ー総合討論、まとめ 【安倍・原】</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>農村女性の戦後史・現代、そして世界において、女性が暮らしの現場から問い続けてきたことをふまえ、農村社会での女性の活動について学んでいく。教科書の中から興味を持てる内容を中心として事前に学習して、授業に臨んでほしい。</p> <p>また、以下についてガイダンス時に提出する。</p> <p>①少子高齢化について連想することや、思うことを800字程度で書く。</p> <p>②農村の女性の現状について、課題があるとすればどんなことかを考え、箇条書きにする。</p>		
教科書	『<食といのち>をひらく女性たち』 (一社)農山漁村文化協会		
参考書	適宜紹介する		

人間力領域シラバス

(領域) 人間力	(学群) 人間力入門		
(科目名) 経営者のための社会学	単位数 開講期	1 単位 1 年次 前期	
担当講師	三田 泰雅〔四日市大学准教授〕		
授業のねらい	<p>社会は、無数の人々が持ちつ持たれつの共同生活を送ることで成り立っている。この共同生活は生きてゆく上で様々な助けとなる「きずな」の源であると同時に、自由の妨げとなる「しがらみ」でもある。経営者には、この社会の特性を理解し洞察する幅広い教養が求められる。</p> <p>本講義では、ゆくゆくは地域を担うリーダーを目指す本校の学生が、農業という事業を通じて社会にどのように関わっていくのか、どのように貢献できるのかを、自身で考えるきっかけを提供する。</p>		
授業の概要	<p>第1講では社会学の基本的な考え方について知り、経営者として社会学を学ぶ意義について確認する。第2講以降は現代社会の様々な諸問題を、おもに農業との関わりを中心に考えていく。なお、授業は対話形式やグループワークを取り入れてすすめるため、学生自身が考え自らの言葉を発してほしい。</p>		
授業計画	<p>第1講 農業経営者として社会学を学ぶ意義 第2講 社会の見方を考える 第3講 日本の家と村① 第4講 日本の家と村② 第5講 村落とジェンダー① 第6講 村落とジェンダー② 第7講 社会調査の方法① 第8講 社会調査の方法② 第9講 現代社会と村落 第10講 学生発表</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>日常的に新聞を読むなどして世の中の現象に幅広く触れておく。また、初回講義までに教科書を読んでおく。</p> <p>成績評価については、出席6割以上が評価対象。コメントペーパー、グループワーク時の積極性、最終回の発表内容にもとづいて評価する。</p>		
教科書	出口剛司『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.		
参考書	鳥越浩之著『家と村の社会学 増補版』世界思想社		

(領域) 人間力	(学群) 人間力入門		
(科目名) 経営者のための哲学	単位数 開講期	0.5単位 1年次 後期	
担当講師	大平 浩二 [明治学院大学名誉教授]		
授業のねらい	<p>本講義の目的は、次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な判断力・思考力そして日本を取り巻く諸環境の分析能力の基礎を身につけることを目的とします。今や農業も、政治・経済・経営その他の様々な領域や世界規模の状況変化を抜きには語れません。農業も1つの経営であり、その遂行者の一人ひとりが経営者でもあります。その意味で、自分の意思や農業観そして哲学を持つ必要があります。世界の政治・経済状況の変化、経済や経営の基本を学んだ上で、第一線で活躍する各界の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、それらを基礎として自らの農業経営のあり方を考えます。</p>		
授業の概要	<p>①この授業では、経営者の哲学を学ぶにあたって、まず世界の中で、現在日本がどのような状況に置かれているかを概観します。現代の農業も他の産業、工業やサービス業等と無関係には語れないからです。今進みつつある世界の農業は、グローバルな枠組みの中に組み込まれつつあり、そうした点も踏まえた、主体的で広い視野を持つことが重要です。最初の数回の講義においてこうした状況を考えます。次に、②企業経営の基本とポイントを学びます。ただここでは、単なる経営学上の用語の解説ではなく、現実を正しく知る上での思考の基礎を学ぶことにします。そして③経営者の経営思想や哲学についての幾つかのケースを検討します。④最後に望ましいリーダーの素質や哲学とそれに根差した組織風土作りを模索します。</p>		
授業計画	<p>第1講 講義計画と「変わる世界」 第2講 「変わる世界」と「変わる企業」 第3講 「企業経営」の基本的考え方 第4講 「ケースから考える」1 第5講 「ケースから考える」2 第6講 講義の最後に当たって</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>広く経済・政治・経営・社会等々について関心を持つことが必要。新聞・雑誌などにも目を通しておく必要があります。</p>		
教科書	<p>『ステークホルダーの経営学(第2版)』大平浩二編著(中央経済社, 2016) および『生かされている哲学』大平浩二著(PHP研究所) さらに必要に応じてプリント・資料等を配付します。</p>		
参考書	<p>必要に応じてプリント・資料等を配付します。</p>		

(領域) 人間力	(学群) 人間力入門		
(科目名) 経営者のための心理学	単位数 開講期	0.5単位 2年次 前期	
担当講師	丸山琢真 (組織再生コンサルタント・株式会社エバーブルー 代表取締役)		
授業のねらい	<p>人口減少傾向が加速していく時代においては、農家単体ではなく、同業者同士やその地域社会との互助や連携が求められることから、農業経営は組織的な視点が不可欠となっている。したがって、様々な関係者達との人間関係を醸成し、相互に助け合い士気を維持しながら、健全で暖かいコミュニティを運営していく必要がある。それには、同じ職場で働くメンバーだけでなく、地域社会やコミュニティの信頼関係の形成や葛藤のマネジメント、合意形成などが必須である。したがって、農業に従事しようとする人たちの心理を理解し、集団活動において生じる集団心理的な力を学び、周囲に良好な関係性を形成するために適切に対処する知識と技術の習得を目的とする。</p>		
授業の概要	<p>この授業では、農業経営をおこなう上で知るべき心理学として、2つの側面から構成する。1つ目は、集団形成と発達の側面であり、農業関係者や地元住民に溶け込む際の人間関係の構築に着眼する。2つ目は、組織マネジメントの側面であり、従事者達と共に働く際のモチベーションの向上や、リーダーシップ、ファシリテーションなどに着眼する。これらは、地域にとけ込み農業という産業に従事する固有の事象に対する心理学的側面である。この二つの視点をバランスよく取り扱い、座学と経験学習（グループによるアクティブラーニング）をワンセットとして、学習内容の「腹落ち感」を重要視した授業展開を行う。</p>		
授業計画	<p>第1講 インTRODクション・農業経営者としての社会心理学 第2講 <L>集団の心理Ⅰ：集団方向性・合意形成・葛藤の対処 第3講 <A>マネジメントの心理Ⅰ：ケースワーク 第4講 <L>マネジメントの心理Ⅰ：コミュニケーション 第5講 <A> マネジメントの心理Ⅱ：ケースワーク 第6講 <L> マネジメントの心理Ⅱ：リーダーシップ</p> <p style="text-align: right;">※ L：座学 / A：経験学習 / D：議論</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで前向きに取り組み、学びを生かすことを意識すること ・仲間と議論し、協力し合い、切磋琢磨すること ・予習に関しては、その前の週に課題と質問を提示するので、当日までに実施してくること 		
教科書			
参考書			

(領域) 人間力	(学群) リーダーシップ		
(科目名) 経営者としてのリーダーシップ	単位数 開講期	1 単位 1 年次 後期	
担当講師	桑島 健也 (農研機構 本部NARO開発研究センター 主席研究員、 元 公益財団法人松下政経塾 研修部主担当)		
授業のねらい	本講義は農業経営者に求められるリーダーシップについて考え、これからの農業経営を取り巻く課題を踏まえて自らの経営理念を策定し、リーダーに必要な知識や素養を学び、その資質を培うことを目的とする。		
授業の概要	2年次の「事業計画書」作成に向けた基礎的な講座と位置づけ、リーダーとなるために必要となる経営の考え方や理念を学ぶとともに、学生同士の検討会やプレゼンテーションを経て、各自の「事業趣意書」を作成する。		
授業計画	第1講・第2講 「入学の動機を改めてふりかえる」 第3講 「経営とリーダーシップ」 (講義) 第4講 「経営理念」 検討会 (演習) 第5講 農業経営の理念 (講義及びゲスト講師講演 (予定)) 第6講 農業経営の実践 (演習) 第7講 「事業趣意書」 の作成 (講義及びゲスト講師講演 (予定)) 第8講 「事業趣意書」 検討会 (演習) 第9講 最終プレゼンテーション (演習) 第10講 最終プレゼンテーション (演習) ※ゲスト講師は最大延べ3名程度を招聘する場合がある。		
履修上の注意 (準備学習等)	課題等については、事前に連絡する。		
教科書	松下幸之助『私の行き方 考え方』 (PHP文庫) 松下幸之助『リーダーを志す君へー松下政経塾塾長講話録』 (PHP文庫) 松下幸之助『リーダーになる人に知っておいてほしいこと』 (PHP研究所)		
参考書	適時、連絡する。		

(領域) 人間力	(学群) リーダーシップ		
(科目名) 地域・農村のリーダーシップ		単位数 開講期	1 単位 2 年次 前期
担当講師	門間 敏幸 [東京農業大学名誉教授]		
授業のねらい	<p>現在、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しており、従来の延長線上で機械的に経営を展開することは困難になっている。経営者自らが将来の経営環境に関わる内外の動向を予測するとともに、明確な経営理念と経営戦略を樹立して経営を展開することが不可欠になっている。</p> <p>また、これからの農業経営者は、自らの経営の発展だけでなく、地域の持続的な発展の中で自らの経営の発展を位置づけ、地域および地域の農家とともに発展していくという共生の思想が求められる。さらに、地域の農業及び異業種の経営者間の連携によるネットワーク型農業経営組織の形成、地域の農家の組織化など、多様なリーダーシップが要請される。</p> <p>本授業では人間力豊かなリーダーシップの本質を理解するとともに、将来の地域・農村のリーダーとして自らが自己変革・自己研鑽するための方法解明に有用な理論・知識・基本的な考え方を講義・演習を通じて付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>この授業では、リーダーシップの本質を整理するとともに、地域・農村におけるリーダーシップの特質と特異性を明らかにする。さらに、リーダーシップの源泉となる経営者としての資質や能力の特質を学ぶとともに、農業経営者の能力における総合力の重要性を整理する。</p> <p>こうした授業目的を達成するため、第1講から第3講では、経営者能力やリーダーシップに関する様々な考え方、知識を整理して提示する。さらに、第4講から第6講では、農業・農村の先駆的リーダー、現代の新世代農業経営者の取り組みに関するケース分析を通してリーダーシップの本質を学ぶ。第7講から第10講では、3人1組のチームを作り、新しい農場の設立構想、理念とビジョン、経営戦略とアクションプランという新しい農場の設立活動への参加を想定した演習を行う。この演習を通して、参加者一人一人が自分と仲間の特性と資質を知り、農業経営における自分の活躍場面を理解し、様々な機能を有するリーダーシップの集合体としての農業経営組織の作り方を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1講 リーダーシップとは何か ーその本質を理解するー</p> <p>第2講 地域・農村におけるリーダーシップの特質</p> <p>第3講 リーダーシップの源泉としての経営者能力の特質ードラッカーに学ぶー</p> <p>第4講 リーダーシップのケース分析ー二宮尊徳に学ぶー</p> <p>第5講 リーダーシップのケース分析ー新世代農業経営者に学ぶー</p> <p>第6講 リーダーシップのケース分析ー新世代農業経営者に学ぶー</p> <p>第7講 リーダーシップ演習1 チームを作るー3人で新しい農場を設立するー</p> <p>第8講 リーダーシップ演習2 理念とビジョンを共有する</p> <p>第9講 リーダーシップ演習3 経営戦略を樹立する (SWOT分析の活用)</p> <p>第10講 リーダーシップ演習4 発表と評価</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	受講者自らのリーダーシップを常に考え、自らが理想とすべきリーダーを探しておくこと。		
教科書	『農業は夢・チャレンジのフロンティアー 日本農業を創造する新世代農業経営者の挑戦』門間敏幸 (農林統計協会)		
参考書	『農に人あり志あり』岸康彦 (創森社)		

(領域) 人間力	(学群) リーダーシップ		
(科目名) 農業経営者実践論	単位数	1単位	
	開講期	1年次後期・2年次後期	
担当講師	木之内 均 [東海大学経営学部長 教授・(有)木之内農園 代表取締役会長] 竹本 彰吾 [(有)たけもと農場 代表取締役] 平出 賢司 [(有)エフ・エフ・ヒライデ 代表取締役] 光元 信能 [農事組合法人世羅幸水農園 組合長理事] 山田 広治 [(有)サニタスガーデン 代表取締役]		
授業のねらい	規模や作目の異なる農業経営者を招聘し、企業の社会目的や理念、経営の歴史と実際の経営内容、経営の特徴などを解説してもらう。 農業経営者には自らの経営の分析も含めて解説してもらい、経営分析の要諦を実践的に学ぶ。		
授業の概要	本授業はそれぞれの経営者に自らの経営の立ち上げ・展開の経緯とその間の各種の工夫や苦労に加えて、経営者の心がまえについて直接語ってもらうことが重要である。可能な範囲でデータ・数値情報を示してもらい、経営に必要な資本・労働・農地の3要素、手当てすべき資金、販売戦略、技術導入等を解説いただく。		
授業計画	第1・2講 竹本彰吾 第1講 「事業承継と小さなカイゼン」 親元就農における、事業承継のポイントを、経験談を元に学ぶ。新規就農者や雇用就農者にも通じる、小さなカイゼンの重要性を学ぶ。 第2講 「圃場を出よ」 農業の「やり方」だけではなく、農業人として、地域のキーパーソンとしての「あり方」について考える。アグリファンド石川や、4Hクラブの役職を通じて、見える景色を学ぶ。 第3・4講 木之内均 第3講 非農家の新規参入者から3社の農業生産法人を立ち上げた経緯と考え方について学ぶ。6次産業化の成功のポイントを学習する。 早期に経営権を譲って次世代の育成を行ってきた経緯とメリット、デメリットを考える。 第4講 それぞれの経営体の特徴と資本・労働・農地の3要素、手当てすべき資金、販売戦略技術導入等を学ぶ。 熊本地震を通して経験した企業の危機管理について学ぶ。 第5・6講 光元信能 「果樹協業経営の実践」 世羅幸水農園の生い立ちから経過を振り返り、生産・加工・販売・観光の各部門を組織的に取り組む中での課題と展望を基に、強い農業とは、理想とする農業経営とはを考える。 第7・8講 山田広治 (株)野菜くらぶの独立支援プログラムを経て独立を果たしてからの経緯を元に、野菜生産経営の実情に触れ、新規就農時の留意点、地域を超えて連携する農業の在り方、今後の展望等について考える。		

	<p>第9・10講 平出賢治 製造業に学ぶ農業経営 ～花き生産現場での事例と応用～ 栃木県宇都宮市でユリの生産販売を行うエフ・エフ・ヒライデでは、独自に特徴ある生産と販売を行うと共に、近年では製造業のノウハウを活かした現場改善活動を行う。経営戦略から実際的手法に至るまで、事例を交えて講義する。</p>
履修上の注意 (準備学習等)	<p>第1・2講 農系ポッドキャスト「青いTシャツ24時」を聴いておくこと 第3・4講 事前に指定の教科書を読み疑問点、質問事項を準備しておくこと。 第5・6講 農事組合法人の一端を参考にして、自分が将来目指すべく農業経営像を描く。組合組織が地域に及ぼす影響を考える。 第9・10講 特に事前準備はありませんが、花き生産業の一般的な出荷、流通の仕組みについて知っておくと前提が理解しやすいかと思います。</p>
教科書	<p>第3・4講 『大地への夢 都会っ子農業に挑む』 木之内均 『東京農場 - 坂本多旦 いのちの都づくり』 松瀬学</p>
参考書	<p>第1・2講 『東大卒、農家の右腕になる』 佐川友彦 第5・6講 世羅台地の農魂 (世羅幸水農園初代組合長梶川静一遺稿集)</p>

(領域) 人間力	(学群) グローバル発想		
(科目名) 日本農業史	単位数 開講期	1 単位 2 年次 前期	
担当講師	岩本 純明 [東京大学名誉教授] 堀口 健治 [日本農業経営大学校 校長]		
授業のねらい	日本農業の近現代史を理解するため、農業史を捉える視角を紹介しつつ、授業を進める。明治時代から第2次世界大戦の敗戦そして農地改革までを先ず追う。途上国日本の農業、農村の歴史を学び、近代化し先進国に入る日本のありようを理解する。戦後の農地改革は日本社会にとって大きな意味を持つ。その後の日本農業を取り巻く、高度成長・基本法農政、貿易体制・少子高齢化・耕作放棄・自給率低下・新たな担い手、という現代史を、理解することになる。		
授業の概要	封建制を打ち破り資本主義が展開するが農業はこの流れではなく、地租改正による重い負担を負いつつ、寄生地主・小作という不平等な農村社会が展開する。その下でも農業者の技術進歩に取り組む努力は絶えることがなかった。敗戦後の農地改革は大きな改革で、世界的にも稀有な徹底したものであった。これを維持するための農地法はその後の高度成長などに合わせて改訂され、他の関係法も含め、家族経営の自作農主義から耕作者主義、さらに大規模雇用型経営を含め、農地の売買・貸借が進行する。		
授業計画	<p>第1講から第6講まで岩本、第7講から10講まで堀口</p> <p>第1講 途上国時代の日本が、近代化に必要な資金・労働力・食料をどのように生み出していったか、またその過程で農業・農村が果たした役割を理解する。本講では、地租改正によって近代的な租税制度が確立する意義と農村社会に及ぼした影響について学ぶ。</p> <p>第2講 途上国時代の日本農村は極めて不平等な社会であった。農地の半分以上が地主に所有され、高い小作料で小作人に貸し出されていた。この地主小作関係を取りあげて、農村社会の不平等について考える。</p> <p>第3講 近代化過程で農業部門には重い負担が課されたが、それによって日本農業が衰退したわけではない。日本の農村社会には、技術進歩に取り組む草の根の集団的活動があった。そこで生み出された農民技術の到達点を学ぶ。</p> <p>第4講 第二次大戦後実施された農地改革について、以後3回に分けて学ぶ。本講では、農地改革の内容と意義を概観する。</p> <p>第5講 途上国では、農地所有の不平等を解決する農地改革が必要だと言われるが、決して容易なことではない。数少ない成功例が日本の農地改革である。なぜ成功したのか？その理由を①敗戦による日本社会の「危機」、②アメリカの占領政策、の2点で考える。</p> <p>第6講 農地改革の成功要因を、それを準備した日本国内の事情に焦点を当てて考える。①地主小作関係の変化と②日本の農政官僚の役割の2点を取り上げる。</p> <p>第7講 農地改革の成果を守るための農地法、その後の経営基盤強化法、農地中間管理機構など、時代に対応した農地制度、その特徴と課題を理解する。</p> <p>第8講 自作農体制から借地農体制へ・農業経営の大規模化推進など農業の経営組織は家族経営から法人経営へ内容を大きく変えていく。</p> <p>第9講 米不足を解決した戦後日本農業、そして高度成長を支える農村からの若手労働力流出による農業の担い手の再編成、結果としての自給率の低落の事情を追う。</p>		

	第10講 バブル経済の経験、自由貿易体制下の農業、耕作放棄と後継者難：担い手は誰か、農地利用はどの方向か、自給率低下への考え方を検討する。
履修上の注意 (準備学習等)	授業中の解説・質疑が重要であり、集中し理解してもらおう。復習を期待する。評価は最終の講義日に行う試験を主として、出席や日頃の議論等も勘案する。
教科書	配布資料、パワポも使い、ノートをしっかり取ってもらおう。
参考書	随時、資料室にある図書を紹介する。

(領域) 人間力	(学群)グローバル発想		
(科目名) 語学	単位数 開講期	2単位 1・2年次	
担当講師	English Central 担当者 ECC 担当者		
授業のねらい	<p>農業経営に必要な情報が、グローバルに行き来している現在、情報を直接知る技能が必要であり、なにより世界で最も汎用的な言語である英語が必要となる。英語の構造を理解し、辞書を引けば大要がつかめる能力が、まず望まれる。次に、具体的に商取引が生じた時、あるいは、海外から取材等を受けた時、基本的な事は聞き取れ、重要なポイントは直接伝えられるようでありたい。通訳・翻訳を使う場面においても、論理の展開や表現の方法については、日本とは違う標準がある。自分を誤解されないように表現し、相手の意図を掴むには、英語のルールを知る必要があり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、一定の知識も必要である。この授業は、実践的な英会話の基礎力を身に付けることを目的とする。</p>		
授業の概要	<p>この授業では、様々なジャンルの動画コンテンツから英語の基礎能力となるリスニング、リーディング、スピーキングを学習する。次に自分の意図を伝えるライブレッスンから英語コミュニケーション能力を養う。基本を確認しつつ実践力を身に付けていく。なぜ英語学習につまずくのか、言語構造を理解し、コツをつかむ。英語は、有用なツールであり、英語力を身につけることは、グローバルに物事を考える力を身につけることにつながっていく。英語と日本語の発想の違い、表現の違い、話の進め方の仕方の違いを知り、英語で表現し、コミュニケーションをとることの楽しさを知っていく。</p> <p>リスニング・リーディング・スピーキングを有機的に関連づけながら、総合的・統一的な英語学習を行う。</p>		
授業計画	<p>月8回(週2回、1回25分)のライブレッスン受講を基本とする(実習期間は除く)。 基本編:英語動画からリスニング、リーディング、スピーキングを総合的に学ぶ。 応用編:外国人講師とのライブレッスンでの英会話コミュニケーションを通じてリスニング、スピーキングを学ぶ。</p>		
履修上の注意 (準備学習等)	<p>中学段階の基本英語を理解していることが前提。 本科目は時間を定めず、予め自らの受講スケジュールを組み、それに従って履修を進めるもの。 成績評価については、最終試験の結果と受講状況を総合的に判断して行う。 受講にあたり、カメラ・マイク付きのPCを用意しておくこと。 一定以上の英語力(TOEIC800点相当)を有すると認められるものについては、申し出があれば第2外国語の受講を可とする。</p>		
教科書	特に定めない。		
参考書	特に定めない。		

經營計畫策定演習

経営計画策定演習		
(科目名) 事業構想	単位数 開講期	0.5単位 2年次 前期
担当講師	渡邊 卓 (株式会社売上UP研究所 代表取締役、中小企業診断士)	
授業のねらい	本科目では、経営計画を含む事業計画の概念を理解し、これらの作成の仕方やそのために必要な情報や資料の集め方を学ぶ。その上で、初歩的な事業計画を作成して発表し、討論等を行うことで計画の水準を上げていく。	
授業の概要	事業計画は、法人設立時や新たな事業を始めるにあたってのビジネスモデルとして、または資金調達目的で金融機関に提示したり、国・自治体等の補助金を獲得するための申請書類に記載が求められたり等、多くのビジネスシーンで必要となる。誰もがよく知る企業のビジネスモデルの事例を学び、初歩的な事業計画を自ら作成・発表・討論することで、事業構想のコツを学ぶ。	
授業計画	第1講 事業計画の全体像 第2講 ビジネスモデルの事例研究 第3講 最上位概念としての経営理念、ビジョンと目標 第4講 環境分析、そのために必要な情報や資料の集め方 第5講 ビジネスモデル(コンセプト)を構成するターゲット顧客、顧客ニーズと独自技術 第6講 売上計画のつくり方 第7講 事業計画の発表と討論 第8講 同上 第9講 経費計画と利益 第10講 事業計画書の体裁、事業計画書の作成・プレゼンの方法	
履修上の注意 (準備学習等)	第1講から第6講までは講義を学びながら、並行して事業計画を作成していきます。第7、8講では自らが作った事業計画を発表します。初歩的であっても実際に作って発表して討論することで、新たな気づきを体感できます。各自が仲間の提案に対して前向きなアドバイスをして、また仲間からのフィードバックを謙虚に受け止める過程を通して、事業計画のポイントを会得していきますので、積極的な授業参加を重視しています。	
教科書	「これ1冊でできるわかる事業計画書のつくり方」 著者:渡邊卓、発行:株式会社あさ出版	
参考書	生きた題材に数多く触れることが重要なので、参考書は指定しません。身近にある企業を観察して、お客様は誰なのか、他社との違いや特徴は何なのか、観察していきましょう。これが事業構想の糧になります。	

経営計画策定演習		
(科目名) マーケティング・リサーチ	単位数 開講期	0.5単位 1年次 後期
担当講師	折笠 俊輔 [(公財)流通経済研究所 主席研究員]	
授業のねらい	マーケティング・リサーチは、市場(マーケット)や顧客、生活者を理解すること、そして実際にアクションにつなげるための情報を得るための技術であり、テクニックである。経営者として、「行動につながる情報」を得るためのテクニックをこの授業では学ぶ。	
授業の概要	デスクリサーチから、調査票によるアンケート調査、ヒアリング調査といった技術について座学と演習で学ぶ。 演習では、実際にリサーチを実施し、集計まで行い、発表を行う。	
授業計画	第1講 情報リテラシーとリサーチ 第2講 データの読み方 第3講 リサーチのプロセス 第4講 リサーチのデザイン 第5講 リサーチの具体的な方法 第6講 調査表作成のポイント① 第7講 調査表作成のポイント② 第8講 分析・レポート作成手法 第9講 調査表作成演習 第10講 演習結果の発表とまとめ	
履修上の注意 (準備学習等)	エクセルの技術は必須となる	
教科書	都度配布する	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代マーケティング・リサーチ ― 市場を読み解くデータ分析(照井 伸彦、佐藤 忠彦)、有斐閣 ・ マーケティング・リサーチ入門 (星野 崇宏、上田 雅夫)、有斐閣アルマ ・ 図解 アンケート調査と統計解析がわかる本[新版] (酒井 隆)、日本能率協会 	

経営計画策定演習		
(科目名) マネジメントゲーム	単位数 開講期	0.5単位 1年次 後期
担当講師	調整中	
授業のねらい	本演習では、戦略マネジメントゲームを通じて、企業活動のポイントを理解し、戦略活動・数字感覚・組織・立場・役割の理解を目指す。また、経営者として必要な技能・知識(マネジメント能力)を身につけると共に経営感覚を養い、併せて意思決定で重要なツールである管理会計の体系的な理解をねらいとする。	
授業の概要	<p>戦略マネジメントゲームは、学生ひとりひとりがゲーム形式で会社を起業して経営し、経営活動のさまざまな意思決定を実践していく経営シミュレーションゲームである。</p> <p>ゲームを通じて経営を疑似体験し、他の学生と経営成績を競いながら、経営戦略思考と実務に役立つ会計を体系的に学ぶものである。</p> <p>独立した経営者として自由・自立の精神の下「自ら考え行動する人材」として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての意思決定を一人で行う 2. ゲームのルールに基づき経営を実践する 3. 実践の結果を自分でまとめる＝決算をし、他の学生との議論を通じて内省を行う事を通じて実践的な経営感覚を身に付ける事を目標とする。 	
授業計画	<p>第1回 戦略マネジメントゲーム及びルールの説明・戦略マネジメントゲームの実践①</p> <p>第2回 MQ会計に関する講義と経営方針の策定・戦略マネジメントゲームの実践②</p> <p>第3回 戦略マネジメントゲームの実践③ 実践を踏まえた全体ディスカッション</p>	
履修上の注意 (準備学習等)	チーム単位でゲームを行う為、当日は遅刻等の無いようにする事	
教科書	特に無し	
参考書	特に無し	

経営計画策定演習		
(科目名) 経営シミュレーション	単位数 開講期	0.5単位 1年次後期・2年次前後期
担当講師	松本 浩一 (農研機構 企画戦略本部 農業経営戦略部 経営計画ユニット)	
授業のねらい	本演習では、農業経営が利益獲得を図るための農業生産活動を検討する経営シミュレーションの方法について学ぶ。農業経営の持続的な展開には、経営内外の環境変化に応じた計画立案、実践、評価、改善が求められる。特に、実践する経営計画は極めて重要であり、そのために、経営計画を事前に評価しておく必要がある。そこで、具体的な経営シミュレーションの実践を通じて、経営計画の立案手法を身につけることを目的とする。	
授業の概要	本演習では、経営シミュレーションの実践に「営農計画策定支援システムZ-BFM」を用いる。そこで、まず「Z-BFM」の基礎的概念となる線形計画法の概要を説明することで実施する経営シミュレーションの意義を学ぶ。次に、線形計画法を用いる上で重要となる経営データの内容や整理法を説明することで、各自が必要な経営データを収集するための基礎を学ぶ。以上の基礎的講義を踏まえた上で、「Z-BFM」の操作方法や、それを用いた経営シミュレーションの方法についてPCを用いて習得する。さらに、実際に各自が経営データを収集・整理した上で、それらを用いた経営計画の立案と経営シミュレーションを実施し、その結果を考察する。その考察内容を共有し、総合討議を通じて経営シミュレーションや経営計画の立案手法の理解を深める。	
授業計画	第1講 経営シミュレーションで利用する線形計画法の概要 [講義形式] 第2講 線形計画法で利用するための経営データの収集と整理法 [講義形式] 第3講・第4講 営農計画策定支援システムZ-BFMの概要と操作演習 [PC利用] 第5講・第6講 Z-BFMを用いた経営シミュレーション演習 [PC利用] 第7講・第8講 Z-BFMによる経営シミュレーションの実践演習に向けた経営指標の整理と基準とする経営モデルの構築 [PC利用] 第9講・第10講 Z-BFMによる経営シミュレーションの発表と総合討議	
履修上の注意 (準備学習等)	2年次(第3講)までには、WindowsパソコンによるMicrosoft Excelの基本操作ができるように習得しておくこと。 2年次後期(第7講)までは、経営シミュレーションの実践演習に用いることができる経営データを収集しておくこと。 成績評価は、出席状況と授業態度に、経営シミュレーションの実践演習への取り組み状況と発表内容を加味して行う。	
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。	
参考書	『線形計画法による農業経営の設計と分析マニュアル』(農林水産省農業研究センター) 農林統計協会[絶版?] 『営農計画策定支援システムZ-BFM 操作マニュアル』JA全農営農販売企画部・農研機構経営管理プロジェクト(https://fnrp.dc.affrc.go.jp/download/dl_files/Z-BFM_Manual3_1.pdf) 『営農計画策定支援システムZ-BFM リファレンスマニュアル』JA全農営農販売企画部・農研機構経営管理プロジェクト(https://fnrp.dc.affrc.go.jp/download/dl_files/Z-BFM_Manual3_2.pdf) 『営農計画策定支援システムZ-BFM 解説マニュアル』JA全農営農販売企画部・農研機構経営管理プロジェクト(https://fnrp.dc.affrc.go.jp/download/dl_files/Z-BFM_Manual3_3.pdf)	

特別活動シラバス

特別活動		体育的活動	
(科目名) ヨガ		単位数 開講期	0.5単位 2年次 後期
担当講師	羽根綾子 [ヨガインストラクター]		
授業のねらい	<p>ヨガを通じて心と体の健康を目指します。古くからインドに伝わるヨガの行法や哲学を通して、それぞれの日々の生活や、自分自身の心や身体との向き合い方、それぞれの目標に向かう事のインスピレーションに繋げていきます。</p>		
授業の概要	<p>◎ヨガの実践 インドに古くから伝わる健康法、呼吸法、アサナ（ポーズ）、マントラ（お経）、クリア（浄化法）などの身体的なアプローチで、心と身体を強くします。また毎回瞑想を行い、自分自身を観察する練習をします。</p> <p>◎サットサンガ サットサンガとはインドで古くから行われる集まりで、自分の意見や思いを話す機会です。毎週変わるテーマについて、皆で話し合っていきます。</p>		
授業計画	<p><前期> 第1回 瞑想 Asana クラス 講義 ヨガとは？ サットサンガ 自己紹介</p> <p>第2回 瞑想 Asana クラス 太陽礼拝、立ちポーズ 講義 マントラと瞑想 サットサンガ 良い事を覚えておくという事</p> <p>第3回 瞑想 Asana クラス 前屈、後屈、ツイスト 講義 呼吸法 浄化方法（クリヤ）</p> <p>第4回 瞑想 Asana クラス インバージョン（逆転） サットサンガ ワイルドネス</p>		

	<p>第 5 回 瞑想 Asana クラス アサナジャム 期末テスト</p>
<p>履修上の注意 (準備学習等)</p>	<p>「インテグラルヨーガ」を読んで、400 文字以上の感想文を書く。初回授業までに担当講師にメールにて提出。</p> <p>授業には毎回テキストと動きやすい服装を持参する事。</p>
<p>教科書</p>	<p>テキストを配布する。 「インテグラルヨーガ」</p>
<p>参考書</p>	<p>『インド思想史』早島鏡正（東京大学出版） 『インテグラル・ヨーガ パタンジャリのヨガスートラ』 スワミ・サッチダーナンダ著 伊藤久子訳（めるくまーる） 『やさしく学ぶ YOGA 哲学 - バガヴァッドギーター』 向井田みお著（Under The Light Yoga School）</p>

特別活動	文化的活動	
(科目名) 華道	単位数 開講期	0.5単位 1年次 前期
担当講師	奥平 清祥 [石草流いけばな家元後継]	
授業のねらい	「教養ある真剣な遊び」は、トップリーダーにとって仕事の役に立つ。華道本来の「人の上に立つ者の鍛錬」としての手法を、ビジネスハックとして再構築する。	
授業の概要	自分の強み、自分の勝ち方を、自分で発見して身につける手助けをするのが日本の「道ごと」である。時代や分野をこえてリーダーに降りかかる共通課題には、正解がなく自分で手法を築くしかない。千年以上受け継がれ、時代をこえて残るその秘訣のうち、大事なところだけを多面的多層的に体験型で学び、経営者としての共感力と教養を高める。茶道体験も計画している。	
授業計画	<p>～眠れる資産をほりおこせ～</p> <p>第1回 天の形（たてはな）＝ 線を引く 歴史のパターンを味方につける、リーダーシップとは</p> <p>第2回 地の形（茶の湯の花）＝ 点を打つ 物語という手法を利用する、レジリエンス・臨機応変を鍛えるとは</p> <p>第3回 人の形（いけばな）＝ 面をひろげる 対話という受容能力、進化型の組織とファシリテーション</p> <p>第4回 遠近の法 ＝ 場をつくる（花見・紅葉狩りとの違い） 人は何に価値を見出すのか、ブランディングを高めるとは</p> <p>第5回 古今の法 ＝ 間をとる（フラワーアレンジメントとの違い） 消費者心理の根底にあるもの、イノベーションの起こし方</p>	
履修上の注意 (準備学習等)	特になし	
教科書	特になし	
参考書	特になし	

ゼ ミ

(領域) ゼミ	(学群) ゼミ		
(科目名) ゼミ		単位数 開講期	6単位 1・2年次
担当講師	申 錬鐵〔日本農業経営大学校 専任講師〕		
授業のねらい	<p>テーマ： 家族経営の競争力とそれを支える農業関連機関の役割を理解する。</p> <p>日本農業の根幹をなす家族経営は、規模の零細性、農業収入の季節性、様々な不確実性の存在などにより、農協をはじめ多様な農業関連機関によって支えられている。本ゼミでは、家族経営が農業を取り巻く環境変化にどのように対応しながら競争力を確保しているか、また、その動きを農業関連機関はどう支えているのかを考える。</p>		
授業の概要	<p>本ゼミは家族経営の競争力確保実態を紹介・調査し、その中での農業関連機関との関わりを理解し、そこから得られた知見・アイディアなどを各自が作成する事業計画書に活用することを目指す。</p> <p>【学年別ゼミ1年次】 農業関連機関と関わりながら競争力を確保した家族経営を紹介し、経営戦略を考える。</p> <p>【学年別ゼミ2年次】 家族経営の競争力確保実態を調査し、生産・販売・財務をまとめた事業計画書を発表・議論する。なお、農業関連機関との係わり方についても検討する。</p> <p>【合同ゼミ】 先進農業経営体の視察を行う。視察の取組みから得られた知見を卒業研究計画などに活用する。</p>		
授業計画	<p>【学年別ゼミ1年次】</p> <p>○前期</p> <p>① 目指したい農業経営の在り方を考えプレゼンテーションする。</p> <p>② 参入を希望する地域の農業構造(農家戸数、土地利用、作付けなど)を調べ、目指したい農業経営を具体化する。</p> <p>③ 農業実習計画を策定する。</p> <p>○後期</p> <p>① 現地実習で学んだこと・感じたことをプレゼンテーションする。</p> <p>② 労働力投入、土地利用を踏まえた農産物の生産計画を作成する。</p> <p>③ 市場調査を行い、それに統計資料の分析を加え、販売計画を作成する。</p> <p>【学年別ゼミ2年次】</p> <p>○前期</p> <p>① これまで作成してきた生産計画と販売計画を整理し、そこから財務計画を作成する。</p> <p>② 農業経営者に求められる技術習得(農業簿記、貸借対照表・損益計算書の作成)</p> <p>③ 事業計画書のプレゼンテーション(1): 経営条件、経営戦略、経営計画</p> <p>○後期</p> <p>① 農業経営者に求められる技術習得(経営管理)</p> <p>② 経営計画のプレゼンテーション(2): 財務計画、中長期計画</p> <p>③ 地域の構成員として地域農業に貢献できる役割を考える。</p> <p>【合同ゼミ】 同上</p>		

履修上の注意 (準備学習等)	<p>①ゼミに参加する際には積極的な姿勢をとること。</p> <p>②プレゼンテーション資料は報告1日前に提出すること。</p> <p>③合同ゼミの視察先選定には学生の意見を積極的に反映する予定なので、先進農業経営についての情報を習得すること</p> <p>④成績評価はゼミの出席状況、参加態度、課題提出状況など、総合的に把握し行う。</p>
教科書	特になし。
参考書	参加ゼミ生の学習の進み具合に応じて決める。

(領域) ゼミ	(学群) ゼミ		
(科目名) ゼミ		単位数 開講期	6単位 1・2年次
担当講師	吉野 文菜 [日本農業経営大学校 専任講師]		
授業のねらい	<p>生産者は、自身で栽培や生産に従事する傍ら、経営を担い営業職も担うオールラウンダーです。作れば売れる時代が移り変わり、自分が作ったモノを畑から消費者まで直に関わる農業経営が求められています。</p> <p>ゼミでは、みずからが作った農産物をどの様に販売し、経営基盤を作るか、流通の流れや小売りの立場に立った視線から商品化までの舞台裏を紐解きます。また、自身がどのような農業経営を行いたいアイデアや引き出しを養い、オリジナリティと持続的な経営を目指します。</p>		
授業の概要	<p>本ゼミでは流通を軸に、農産物の販売流通の流れや原価構造の把握、そして自身の取り扱う商材の販売方法の基礎について学びます。青果や加工原料による農産物の販売価格構造や出荷形態等は、各品目により大きく異なることから、卒業後自身で取り扱う商材における流通構造を把握し、時に業界のプロの話を書くことで、実践的な知見を広げます。</p> <p>また、カリキュラムにおける経営計画策定に向けて、自身が目指す将来の姿を模索し、ビジョンに向けたワークを中心に行います。悩みや課題を共有し、どの様に解決を図っていくか主体的に考え取り組んで行きます。</p> <p>現場研修では、「ここでしかできない学び」を軸に、先進的な農業経営体やゼミ共通のテーマを元にフィールドに出ます。東京という地の利を生かし、トレンドや最先端の情報に触れ、視野を大きく広げていきましょう。</p>		
授業計画	<p>【1年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の将来ビジョンを模索する <ol style="list-style-type: none"> 自身が将来目指したい姿に向けた調査と情報収集 実現したい農業経営の仕組みや収益構造を組み立てよう 商物流に見る農産物の流れと身の回りの商品について考えよう 卒業研究の経営計画策定に向けて <ol style="list-style-type: none"> 経営計画策定に向けたビジョンの作成 経営計画やビジョンを元にした農業実習計画の策定 トピックス、ワークやテーマにおける課題の発表 <p>【2年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 販売について実践的な知見を広げる <ol style="list-style-type: none"> 商品になるまでを考えてみよう バイヤーの視点と流通を知ろう 販路について考えよう 商品提案と商談の基礎知識を学び、自分自身で作成してみよう 卒業研究の経営計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 経営計画策定に向けた具体的なアウトプット ワークや課題の発表 <p>*ゼミ生による希望内容の提案や、進捗の考慮により内容は変更になる事があります</p>		

履修上の注意 (準備学習等)	<p>将来に対する課題認識を持ち、ゼミに参加してください。また、ゼミ内での活発な議論で知見を深める事を主眼に置き、主体的に取り組む姿勢を希望します。</p> <p>ゼミには、パソコンの持参をお願いします。</p> <p>評価については、出席率、課題提出、発表やゼミ出席時における姿勢を考慮して行います。</p>
教科書	必要な場合適時紹介します
参考書	同上

2021 年度 日本農業経営大学校 シラバス

(2021 年 4 月発行)

(連絡先)

一般社団法人アグリフューチャージャパン 教務部

〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13

農林中央金庫品川研修センター 5 階

TEL 03-5781-3751 FAX 03-5781-3752

E-mail jaiam@afj.or.jp

URL <http://jaiam.afj.or.jp>



**Japan Institute of
Agricultural Management**